2—1

島田三郎 安部磯雄 監輯

廓清

第三卷 第壹號

主張 社會之改良・風紀之廓淸・男女之貞潔・家庭之和樂

東京廓淸會本部發行

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

謹迎諒闇新年

會員諸君の健康を祝し本會の發展祈る

大正二年一月

廓清會本部役員地方支部役員一同

出版書目

歐米諸國 **醜業公認制度廢止運動** 定價一冊 拾五錢 郵税貳錢

右は先般本邦に來援せられたるモーリスグレゴリー氏の著書を飜譯せしものにして、安部磯雄氏の嚴密なる校閲を經たるものなり。自己の研鑚の爲め將又主張貫徹の爲め、最も有力なる武器なり。奮つて購讀あれ。

廓清叢書第一卷 **公娼廢止論** 伯爵 大隈重信述

廓清叢書第二卷 **此罹災者を救へ** 廓清會理事 益富政助述

廓清叢書第三卷 **道樂者への强異見** 救世軍大佐補 山室軍平述

廓清叢書第四卷 **自由廢業を奬勵する理由** 救世軍大佐補 山室軍平述

廓清叢書第五卷 **廓清會組織の趣意** 廓清會長 島田三郎述

廓清叢書第六卷 **公娼制度と社會の風儀** 廓清會副會長 安部磯雄述

定價一冊各貳錢 郵税六冊迄貳錢

本會に所用の方は

東京神田區美土代町三丁目三番地

廓清會本部

宛に願上候

會費の納入

會費は郵便爲替、又は振替貯金東京一九五三三番益富政助に拂込まれたし。

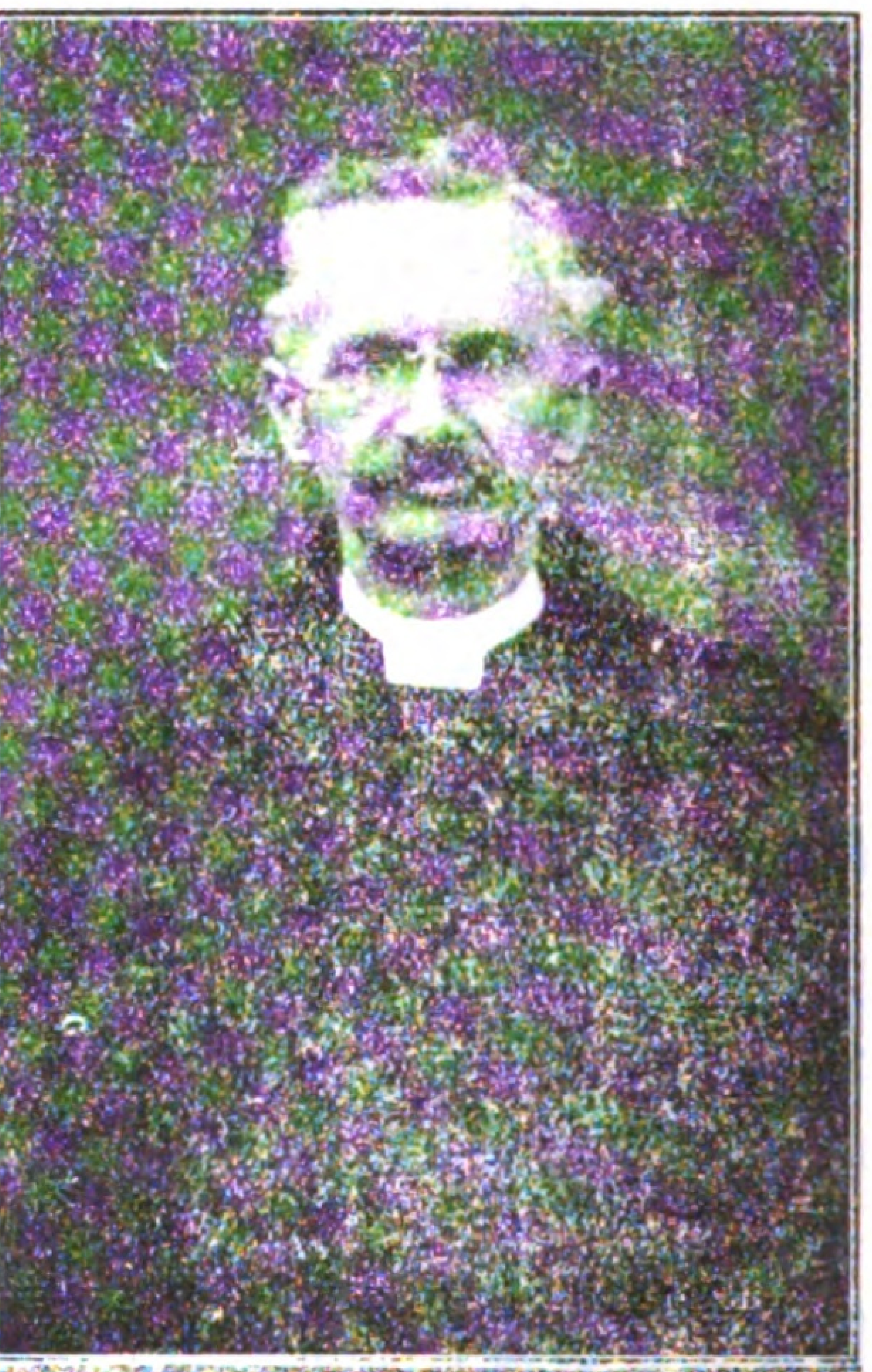
（注意）前項振替口座一九五三三番は益富政助氏名儀にして廓清會所有にあらず、依て御送金の節は、必ず益富政助宛に御拂込相成たし。但し裏面に「廓清會費」と明記ありたし。

大正二年一月十五日納本 一部定價金六錢
大正二年一月十五日發行（毎月一回十五日發行）

編輯兼發行人 神田區三河町一丁目十四番地 益富政助
印刷人 神田區三河町一丁目十四番地 小林照雄
印刷所 丸利印刷所
發行所 神奈川縣川崎町砂子百三番地 廓清發行所

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廢娼論家肖像（[illegible]）



神學博士 コーツ氏



衆議院議員 根本正氏



靈南坂教會牧師 小崎弘道氏



大日本禁酒會長 安藤太郎氏

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

廓清會會則

第一條　本會ハ廓清會ト稱ス

第二條　本會ハ本部ヲ東京市神田區美土代町三丁目三番地東京基督教青年會館内ニ置キ、追テ支部ヲ各地ニ置ク

第三條　本會ノ目的ハ公娼制度ヲ廢止シ推シテ男女間ニ貞潔ノ種操ヲ進ムルニアリ

第四條　本會ハ其目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ爲ス

(一)毎月一回「廓清」ト題スル雜誌ヲ發行スルコト

(二)時々適當ノ出版ヲナスコト

(三)公開演說會ヲ開催スルコト

(四)帝國議會ニ公娼廢止ノ請願ヲナスコト

(五)當局官廳ニ公娼廢止ノ建白ヲナスコト

(六)公娼廢止ノ善後策ヲ攻究スルコト

(七)娼妓其他醜業婦ノ救濟

第五條　本會ニ調査部ヲ設ケ左ノ事項ヲ調査研究ス

(一)公娼ニ對スル現代思想ノ研究

(二)遊廓其他花柳界ノ調査

(イ)婦女誘拐及ビ誘拐者

(ロ)醜業婦口入業者

(ハ)貸座敷業者及ビ其雇人

(ニ)娼妓ノ出身現狀及ビ成行

(三)公娼制度ト法規トノ關係調査

(四)公娼制度ト衞生トノ關係調査

(五)公娼制度ト風紀トノ關係調査

(六)公娼制度ト教育トノ關係調査

(七)公娼制度ト經濟トノ關係調査

(八)公娼制度ト公權トノ關係調査

(九)外國人タル醜業婦ノ狀態調査

(十)外國ニ於ケル日本醜業婦ノ調査

(十一)內外醜業婦ノ沿革調査

(十二)藝妓酌婦其他類似ノ稼業者ニ關スル調査

(十三)蓄妾、私通、姦通、離婚等ニ關スル調査

(十四)婦人問題、貞操問題ニ對スル現代思想ノ研究

第六條　本會ハ本會ノ趣旨ヲ贊成スル男女ヲ以テ組織ス

第七條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

役員ハ總會ニ於テ之ヲ選擧ス

會長　壹名

副會長　貳名

理事　八名

會計　壹名

書記　若干名

第八條　會長ハ會務ヲ統理シ、副會長ハ會長ヲ輔佐シ且ツ必要ノ場合ハ之ガ代理ヲナス

理事ハ本會ノ實務ヲ執リ、會計ハ本會ノ會計ヲ掌ル、書記ハ本會ノ記錄及雜誌編輯ノ事務ヲ擔任ス

第九條　本會ニ調査委員若干名ヲ置キ第五條ノ調査ヲナス、委員ハ會長之ヲ推薦ス

第十條　本會ニ評議員若干名ヲ置ク

評議員ハ總會ニ於テ之ヲ推薦シ、本會ニ對シテ必要ナル助力ヲ與フ

第十一條　本會ニ顧問ヲ置ク

顧問ハ總會ニ於テ之ヲ推薦ス

第十二條　本會ニ入會セント欲スル者ハ原籍、現住所、職業氏名、年齡及、會員ノ種類ヲ記シ本部ニ申込ムベシ

第十三條　會員ヲ分ツテ贊助會員、正會員ノ二トス

贊助會員トハ本會ノ維持費トシテ毎月一口(廿五錢)以上ヲ出資スルモノニシテ、正會員トハ毎月金五錢ノ會費ヲ納ムルモノトス

第十四條　會員ニハ機關雜誌「廓清」ヲ毎號無代配布ス

第十五條　總會ハ毎年五月之ヲ開キ事務報告其他會務ヲ議ス但シ必要ノ場合ハ臨時總會ヲ開ク事アルベシ

廓清會役員名簿

本部役員

顧問　大隈重信

會長　島田三郎

副會長　矢島楫子

同　安部磯雄

會計　山本邦之助

常務理事　益富政助

理事　内ヶ崎作三郎

同　鵜崎庚午郎

同　矢吹幸太郎

同　山田彌十郎

同　小松武治

同　小崎千代子

同　島貫兵太夫

評議員　井深花子

同　服部綾雄

同　林歌子

同　羽仁もと子

同　本多貞子

同　徳富久子

同　十時菊子

同　富永のぶ子

同　戸川秀子

同　大關和子

同　渡邊鎌子

同　渡邊つね子

同　嘉悦孝子

同　高崎介藏

同　瀧本みつゑ子

同　武田淑子

同　綱島佳吉

同　根本正

同　名出昱子

同　植村正久

同　泙田和民

同　小田川優子

同　山室軍平

同　山室機惠子

同　松村介石

同　松永文之助

同　福島四郎

同　小崎弘道

同　江原素六

評議員 寺尾愛子
同 安藤太郎
同 栗屋榮子
同 齋藤壽雄
同 山東泰子
同 城戸順子
同 湯淺治郎
同 湯淺とき子
同 三輪田元道
同 三並良
同 宮田脩
同 島田信子
同 清水ふき子
同 清水たね子
同 日向輝武
同 日向きむ子
同 平岩愃保
同 元田作之進
同 角倉賀道
同 杉浦のぶ子

群馬支部役員

委員長 德江亥之助
常任委員 田村作太郎
同 高橋駒次郎
同 松宮彌平
委員 半田兵次郎
同 星野きよ子
同 ヘツトレー
同 戸谷清一郎
同 千木良芳郎
同 大越鉉吉
同 岡部なを子
同 太田九之八
同 大澤虎雄
同 大戸きし子
同 柏木かや子
同 金澤なを子
同 高橋松太郎
同 中村清次郎
同 中島佐久馬
同 野口せい子
同 桑原定助子
同 栗谷徳治子
同 熊和せつ子
同 大田重太郎
同 山田しん子
同 松田榮治
同 正田虎四郎
同 阿部仙太郎
同 荒清記
同 齋藤壽雄
同 宮前右太郎
同 柴田とよ子
同 森川抱次
同 森村堯太
同 住谷天來

大阪支部役員

委員長 長田時行
常任委員 林歌子
同 加藤直士
同 名出昱子
同 佐島啓助
同 清水種子
委員 石神八重子
同 今井信子
同 井口昌藏
同 井上はぎの子
同 蜂須豐一郎
同 早川みぶよ子
同 馬場銈作
同 二宮わさ子
同 堀峯橋
同 オルチン
同 緒方吉重子
同 大塚常子
同 緒方銈次郎
同 加古幸惠子
同 桂よね子
同 河原鈗三郎
同 吉本賴子
同 吉岡哲夫
同 高木貞衛
同 武田龜吉
同 田口たけ子
同 谷口こう子
同 辻よね子
同 並川つる子
同 名出保太郎
同 中村三郎
同 山口陽子
同 山田祐
同 安來忠次郎
同 松岡歸之
同 藤仲民子
同 深田直太郎
同 小泉濟
同 淺井泰子
同 青木庄藏
同 佐潮うの子
同 菊池しな子
同 湯淺豐太郎
同 三浦さき子
同 宮川經輝
同 清水芳吉
同 潮川うめ子
同 杉田磯子

京都支部役員

常任委員 井上源三郎
同 小澤行善
委員 石黒猛次郎
同 原田助
同 堀内徹
同 富森幽香子
同 尾崎保
同 尾崎夫人
同 中村榮助
同 山崎英泉
同 松浦有志太郎
同 牧野虎次
同 デントン夫人
同 荒木虎之助
同 佐伯理一郎
同 同夫人
同 湯淺とき子

靜岡支部役員

委員長 原崎源作
副委員長 尾崎元治郎
會計 豐島英敏
書記 田中鉦太郎

(いろは順)



廓清時言

外人の娼妓救濟

先頃の萬朝報紙上『外人娼妓を救ふ＝和蘭議員の同情』と題して左の記事を載す。吾人は斯くの如き事實に接する毎に世界の一等國を以て誇る我日本帝國の面目何處にあるかを思ふて眞に冷汗背を濕さざるを得ず。賢明なる當局者の所感は如何。敢て問ふ。

『和蘭議會の議員にて社會黨員たるエイチヴアンコール氏(六十)と云ふ老紳士、先頃より來朝して横濱市山下町オリエンタルホテルにあり。日本の貧民社會、娼妓制度及び穢多社會の研究中にて去十七日には横濱神風樓に至り、樓内の狀態と娼妓の起居飲食の點まで委しく視察し、更に娼妓小濱事大和田お富(二十九)に就て苦界に投せし原因を聽き、深く其身上に同情し、直ちに七百金を投じてお富を廢業させ、翌日馬車にて同市平沼町一の八の實父平七郎方迄送り届けたるが、お富は七年前人に嫁し重種(六こ)と云ふ子迄擧げしも夫死亡して實家に歸り、其内實家零落せしより其急を救はんため本年三月身を賣りしもの、端なく救はれて嬉し涙に家に歸り、將來は獨立してヴ氏の厚意に酬いんと誓ひたるが、是に就きてヴ氏は『日本の娼妓制度は奴隷的です。日本婦人が家の爲に自己の貞操を犧牲としたる義務觀念には感心しました。私は彼女の身上話や他の娼妓の境遇を聞きて同情に堪へず。經濟だに許せば總ての娼妓を廢業させたいけれども今は夫が出來ぬ。切ては一人でもと思つて人道の爲に廢業させた次第です云々と語れり。』

寺内總督と藝妓問題

寺内朝鮮總督は正月の三ケ日に京城の藝妓二百名全部を官邸に引見し、嬌語喃々、然も二圓づゝの祝儀を與へ、總纏頭を撒きたりとの報道東京朝日によりて傳はりてより、宮中府中とも伯の不謹愼を責むるの聲漸く囂然たらんとするの形勢なるを以て、德富國民新聞社長は七日渡鮮すべきを繰り上げ、四日に渡鮮したるなりとさへ噂せらる。されど吾人は嚴格を以て名高き寺内伯に斯かる事のあるべしとは信ぜざりしが果せるかな、後報によれば、所謂引見せるには非ずして、藝妓の方より御年始に參邸したるを、一人受け二人受けせしが始まりにて、京城中總ての藝妓が總督邸へ詰め掛け御年始を云へるなりといふ。誤傳にて先づ以て仕合せなりしも然も總督の爲に謀るに、藝妓の年始などは最初より受けられざりせば

世間をして誤解せしむる事もなく、又朝鮮の風教の爲にも得策には非ざりしやを思ふ。

便所と妓樓

東京市の體裁上甚だ醜き者ありとて市街に設けある便所を今後半ば地下に設くる方針を採り、若し事情之を許さゞる時は從來通り地面に設くるも、其周圍に樹木を植ゑて、あらはに便所の街上に見はるゝ事を避くる事とすべしと云ふ。是眞に當然の事にて一日も早く斯くありたしと望む所なれども、市内多くの場所に於て妓樓が、軒を並べ甍を列ね、白晝公々然として營業し居るの尚一層醜きものなるに氣付かず平然看過するは何の故ぞ、淺ましき事ならずや。

制限主義は保護主義なり

舊臘中東京府會が警視廳當局者に對し、私娼取締に關する意見を質せしに對して、當局の答を聞くに「賣春婦の取締は彼等の雇主の營業を妨害せざる範圍、人權を蹂躪せざる範圍を以て、法規を勵行する筈なり。畢竟放任せず、又嚴禁せざる制限主義なり」と云ふ。

斯かる罪惡は嚴禁してさへも、中々に驅除し難き性質のものなるに、最初より嚴禁せざる方針なりと云ふ。東京市内の私娼の跋扈する當然なりと云ふ可し。況んや制限主義は、制限内に屬する私娼は、つまり當局の寛容保護を受くる理合ならずや。之れ驚く可き方針なり。

川上新總監に囑す

川上新警視總監は嘗て、和歌山縣知事として、常に置娼運動に反對し非公娼主義を持しつゝありしと聞く。氏は公娼を存置せざる事の社會風教の上よりは勿論、衛生上果又殖産工業の發達のためにも大なる利益なるを實驗したる人なり。思ふに東京市の風紀警察は必ずや新總監によりて今後其面目を改むるに至らん。

願はくは從來の愚なる風紀取締政策を破壞し、風教のため大に活動するところあらん事を望まざるを得ず。之豈獨り吾人の望ならんや、善良なる市民の切なる囑望たらずんばあらず。

學生と廢娼運動

早稻田大學生の廢娼運動は着々進行し、安部磯雄氏を會長に内ケ崎作三郎氏を副會長に推戴し、現に三百餘名の同志あり。吾人は之れを以て最も祝す可き事なりとなす。

然るに或新聞紙は「今の學生にさる余裕ありや」とて嘲笑の態度を取れるもあり、如何なる了簡にや。坪内博士の「當世書生氣質」を讀み、今より二十有餘年前の學生が遊廓通を以て當時の書生氣質となしたる時代に比し、遊廓征伐を以て其の書生氣質となす時代と何れが祝す可き現象なりや。將た又學生らしきとなすや。愚者も之を判斷するに苦します。學生の廢娼運動を妨げんとするが如きは、放蕩兒にあらずんば、

遊廓に一杯喰はされて居る記者の類のみ、顧慮するに足らず。早稲田の健兒よ、大に奮へ。

淺草の魔窟より代議士を出さんとす

淺草千束町の魔窟撤廢問題は、其後猶は紛擾を極め、吉原遊廓の壓迫益々甚しきを加ふるより、魔窟側にては有力なる團體を組織して是と對抗せん計畫を立て、舊臘廿三日夜秘密會議を開きて熟議する所あり、魔窟の地主なる松崎樅四郎始め、萩原、辨宮等相談の結果、同魔窟營業者の名儀を男子に書換ゆれば優に一千名の有權者を得べく、斯くて選擧場裡に打て出で、僅々二百餘名の有權者を有する吉原を壓迫し得べしと敦圍き居れりと(東京毎日による)嗚呼益々出でゝ益々怪、識者の監視を望まざるを得ず。

妓樓のクリスマス

『妓樓の聖祭』と題して舊臘「都新聞」に左の記事あり『横濱遊廓へ行くと外人専門の神風樓を始め櫻花樓花ハウス旭樓其他十餘の青樓ではそれ〴〵にお正月の入費を收める日として待たれてゐたゞけに、夜に入つてから鼻歌混りで標れる世界各國人が多かつた。神風樓では流石に海外まで知られたナンバイナンの名に恥かしからぬ飾りをした。職人は三日前から入つて樅の大枝が玄關正面に建てられ、美しい品々が澤山くくりつけられてある。娼妓の部屋には實意を見せた馴染の外人からの贈り物で、之も美事に飾り立てられてある。斯うして九時過ぎからお忍びの腕車で白粉つけたサンタクロースに逢ひにくる紳士連のハロー〳〵と云ふ聲が年一度に賑かさうである。』

クリスマスが今や我國年中行事の一となりつゝあるは喜ぶべしと雖も、然かも妓樓に於てまでクリスマスの眞似事をするに至りては、是れ實に聖祭の濫用にして基督教徒の默過すべき事件に非ずと信ず。横濱市内の教役者、宣教師、基督教徒諸者の熟考を促がす。因に記す、神風樓は外人専門の妓樓なりと云ふ。果して然らば在横濱の外國宣教師諸君は同盟して當局者に建議し、之が撤廢を要求すると同時に外人をして謹愼せしむべく充分に忠告説戒すべきなり。

屑を賣るものは屑を買む

盜人にも三分の理ありと云ふ。公娼制度にも亦必ず多少の理は存せん。而かも之れ西洋の諺に所謂『屑を賣るものは屑を買む』の類なるを如何せん。

婦人矯風會を援助せよ

我が日本基督教婦人矯風會に於ては、帝國議會開設以來毎回一夫一婦に關する法律案、幷に海外醜業婦取締法案を提出しつゝあり。而して帝國議會が如何に之れを取扱ひつゝありやを見れば、實に痛嘆に堪へずと云へども而かも尚、百折不撓の精神を以て、矢島老女史が殆んど一代の事業として之に盡力せられつゝあるは、吾人の感謝に堪へざる所なり。願はくは我が廓淸會員諸君が此事業に援助せられん事を切望す。



宗教上より見たる公娼問題

神學博士　ハーパー、エッチ、コーツ

（一）公娼制度と日本の宗教

舊臘十二月四日のシカゴの新聞は、同地に於て今度愈々醜業婦を掃滅し盡したと報じてゐる。そして同地の貴顯富豪達が申合せて淺ましい生活をしてゐる婦人達を救ひ出し、それぞれ正業に就かしめたり、適當な職業の見つかる迄一定の處に收容して再び斯うした醜い生活をさせまいとしたのであつたといふやうな事が書いてあつた。して見るとシカゴ市には私娼の影をすら認めなくなつたのである。之は當然しかあるべき事で、日本のみいつ迄も公娼制度といふやうなものを布いてゐて吉原の如き奇觀を現じて怪しまないのであらうか。如何にも不思議な現象である。

日本の歷史を繙いて見ても私は斯ういふ醜惡なる制度を日本の宗教家――神道にまれ佛教にまれ、乃至儒教にしても放任して顧みなかつたといふのは理由なき事で、如何なる點から考へても根本の主義理想としては否定せなければならぬ。

神道では『淸め』といふ事を矢喧しくいふ。不潔といふ事は最も此道の嫌忌する處なのである。さうして見れば男女の關係に就ても淸い高尙な考へを有たなければならぬのは自明の理である。けれども日本の神代にあつては神々は多妻主義であつた。その神々を理想の體現とする日本人が男女間の貞潔問題に就て嚴肅なる道義觀念の缺如するのも不思議はないやうにも思はれる。神道の理想は元よりもつと高い處にある筈であるが、何分にも神道には餘り道德の敎へはない、日本人は獨りで敎へないでも之を守ると自負してをつたのである、けれども神代の多妻主義の影響は爭ふべからざる事實となつて表はれた。

（二）社會の基礎は家庭にあり

佛教は怎うであるか、お釋迦時代は所謂出世間主義で、男子が女子と關係せぬといふ極端な主義の上に立つてゐた。此敎をよく守つた名僧達がいくらもあつた、今日もあるであらう、けれどもそれは誠に不自然な話である。あまりに自然に悖き過ぎてゐる。其結果は極端から極端に流れた。壓迫に對して反抗のあるのは當然のことである、此點からいへば眞宗の如き結婚を許してゐる宗派は缺點が尠い筈であるが事實は果して怎うであるか私は知らない。要するに社會といふものは個人を基礎として成立つものではない、家庭の上に形作ら

れなければならぬのである。さらば儒教の方は如何かといふに、儒教では夫婦の中睦じくすべき事を説いてゐる。一夫一婦主義が理想でなくてはならぬのはいふ迄もない。

（三）本能を靈化せよ

翻つて基督教を顧みるに基督以前の猶太教はやはり多妻主義を實行して居つた。けれども創世紀の始めに二人の者一體となるべしとある、これが舊約根本の主義である、（創世紀二章廿四節參照）猶太教徒は實際多妻主義を行つてはゐたものゝ此創世紀の理想から影響を受けて、他の古代諸國に比すれば猶太人の家庭は餘程純白なものであつたと思ふ。唯に男女の關係に限らず諸道徳が餘程勝れてゐたやうである。青年に女郎といふ樣な女に關係する事が恐しき罪惡であるといふ教訓はいくらもあるが、殊に箴言の中には幾度も繰返して教へてある。（箴言七章一節より廿七節迄參照）

新約時代になつて、基督は、姦淫とは單に身體の罪に止まらずして婦を見て色情を起したるものは心の中既に姦淫したるなりと仰つてゐる位で、（馬可傳十章五節より九節迄參照）、基督時代から男女の關係に就て非常な純潔な態度を取るやうになつた。使徒ポーロの書簡などを見ても教會の會員の中に不潔な者を出した場合は嚴重に之を訓戒し、怎うしても止めない時は之を放逐してゐる。（哥林多前書七章參照）

勿論今日の基督教國にあつても腐敗した分子のあるのは事實である。恥しい事ではあるが事實である。けれども一夫一婦主義に反した不潔な行爲をする者は相當な社會には殆んど容れられないのである。醜業者から學務委員や町長や代議士を出すやうな事は以ての外である。其僅な社會に容れられない分子に對しても我々は之を教化するやう運動して止まないのである。シカゴの魔窟掃蕩の如き好適例であると思ふ。

此頃よく自然に歸れといふ言葉を聞くが、獨逸のニイチエであるとか、佛蘭西の自然主義のやうな野蠻な自然には歸る必要はない、我々はもつと純潔な自然に歸らなくてはならぬ私はどうしても日本人が婦人の價値を重んずるやうにならなければならぬと思ふ。どうも日本人はマホメット教に見るやうな婦人を玩弄物視する傾向がある。斯ういふ有樣では到底男女問題の解決は覺束ない、社會廓清の上からは婦人の地位を高めるといふ事は最も重要なる點である。夫婦の關係の如きも肉體を基礎としてはならぬ、永遠の幸福に關する運命を計る覺悟で結婚をして、家庭をして一種の天國をなさしめなければならぬ。斯くしてこそ始めてホームといふ言葉の眞の意味はあるのである。我々は常に神の子であるといふ高尙な理想を有つて、相互に潔白な愛の下に生活をしなくてはならぬ。この『愛』といふ言語も基督の精神によつて其意味の內容が生れ變つたのである。と云つて肉的快樂を全然捨てゝ了へといふのではない。佛教でいふ樣に欲望を解脱せよといふのではない。人間である以上は身體を有つてゐる、さういふ情慾を有してゐるのもやはり神樣の賜である。唯それを活用する人の考へ一ツでそれが潔くも又不潔にもなるのである。慾

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

望——本能を靈化する、そこに最高至上の生活は展開せらるゝ。蜉蝣一期の儚なき快樂の追求から醒めて、永遠の幸福湧く大怡悅の泉は滾々として足下に流れ來るであらう。

《四》羅馬の滅亡と日本の危機

基督教は、假しやそれが罪惡にもせよ快樂としてゐるものを人の手から奪つて、何も其かはりを與へないやうな無情なものではない、廢娼運動も法律や道德で禁ずるばかりではまだ理想的ではない。其償ひとして否百尺竿頭一歩を進めて靈的の滿足を與ふる爲に我々は努力する必要があるのである。けれども法律を以て若い者を誘惑にかからぬ樣豫防することは社會の義務である、責任である。それをわざ〳〵政府が吉原のやうなものを公に許して、若干の銀貨を以て何處其處へ行くべしと奬勵するやうな事は、國家の政をするものゝ取るべき態度では斷じてない誘惑にかゝらぬやう、善い事をなし得るやう、其道を出來るだけ容易ならしめるべき筈なのである。して見れば今日の吉原のやうな不道德を敎唆する制度は絕對に反對すべきものであると言ひ得るのである。要するに公娼制度といふものは世界の大勢に伴はないものであつて、獨り日本に於てのみ合理的で、社會の幸福を增進し得る筈はないのである。

一體日本人は猥褻な事も平氣で口にしてゐる習慣があるやうである。私は此事をいつも遺憾に思つてゐたのであるが、家庭に於ても友人の間に於ても、或は宴席公會の席に於ても今日の如く卑猥な言葉を口にして恥ぢない樣な人達が多いのは如何にも見苦しい事であると思ふ。殊に子供や青年の前に於ては一言たりとも汚い話をすれば、やがてそれが種となつて後にはどれ程子供や青年の人格を傷けるに至るか分らぬのである。西洋などでは苟も相當な人達の間には、宴席であつても如何なる場合に於ても卑猥な言葉を耳にするやうな事はない。假令さういふ人間があつても對手の人は非常なる侮辱として受取るのであるから、自然社會から容れられなくなるのであるが、日本人は此點に於て反省の餘地が充分あるやうに思はれる。假し自分自ら其麼語を口にしない迄にも、さうした話を聞く事を喜ぶやうな傾向がある。これを談話の中にも或は態度にも嫌惡するだけの潔さがないと、さういふ間隙から惡魔は容赦なく侵入するのであるから、二十世紀の文明を呼吸してゐる人としては是非今少し潔白な、崇高な人格を築き神の宮殿をして恥しめらるゝ事なからんやうにありたい忌憚なく云へば日本は今實に大切な時代である。羅馬帝國の滅亡の如き、原因は多々あるけれども、男女間の不潔の如きは其大なる一因であつた事は何人も拒む事を許さない。近來の日本も同じ危機に際會してはゐないだらうか、ほんたうに眼を醒さなかつたならば古今東西の史乘に徵して私は日本の衰亡を豫言し得るのである。幸なる哉廓淸會の如き尊き運動が起つて、此危機から救ひ出されやうとしてゐるのである眞に愛國の士は、其祖國の興廢の上からも本會に馳せ參じて奮闘しなければならぬ。

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

廢業娼妓の身の上

救世軍大佐補
廓清會評議員　山室軍平

私は今「廢業娼妓の身の上」と題し、救世軍にて扱ふたる多數の廢業娼妓の中にて殊に最近の數十件を土臺とし、有の儘に彼等の身の上に就てお話申上たいと思ふ。是れ一つには此方面の隱れたる事情を世の心ある人々に紹介して、大正の御代に尙如何に醜怪極まる奴隷賣買の制度が公けに認められて居るかを示し、それと同時に一面には如何に婦人救濟の事業、進んでは公娼廢止の運動の切迫したる需要であるかを訴へんが爲である。此度は先づ私共の扱ふたる廢業娼妓等が、如何なる動機から其廢業を思ひ立つに至つたかといふ事實に就てお話申上ぐることゝし、引續き彼等が廢業當時の事情、又は其廢業後の成行等に就て申述たい考である。

（一）空念佛を唱へる僞善國民

今の日本は公娼制度を認むる日本である。西洋各國にも賣淫婦は澤山に居り、放蕩なる男子は其數が多い。併しながら概して言へば他の文明國では一夫一婦以外の男女の醜關係は不都合の事として之を禁止してある。禁止してあるにも拘らず之を破る者のあるのは遺憾の事ではあるが尙始末が好い。これは泥棒や、放火を惡事として禁じてあるに尙之を犯す者があるのと同樣である。併しながら不幸にして我日本では男女間の醜行は少しも惡い事になつて居ない。これをとがめるのは或規定の場所以外の所で之を行ふた時、其手續が違ふといふて之を咎める位のものである。婦人か金と引換に賣淫することは日本では天下晴れての公然の營業である。男子が買淫をするのは無論政府が認めて之を許して置く事である。若し之を咎める場合があつたならば、それは唯規定の場所以外でやつた時に限ることである。例へば銀座の大通では市の體面に關するからといふて活動寫眞館を設くることを許さぬ如く、又は日本橋、京橋の繁華な處では體裁が惡いから木賃宿を開くことを禁じてあると同樣、或區域では公けに賣淫を許さぬといふ丈の規定はあれど、それは唯體面上のことである。取締の都合だけのことである。賣淫其者は立派に公許されて居るのである。金さへ出せば男子が婦人を弄ぶのは尋常の事として政府が認めて置くのである。此の如きものが即ち所謂公娼の制度である。此んな淫行公許國に放蕩息子が出來た處が、不良少年が現はれた處が、將又多數の犯罪者が生じて犯罪第一等國だなどいふ者がある樣になつた處が、一向不思議はないではないか。御覧なされ、所謂放蕩息子、不良少年、

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

犯罪者等の大部分は皆其初遊廓にて不品行道樂の手ほどきをされ、或は現に遊廓に足繁く通ひつゝ彼が如きの罪惡と墮落とに至つて居るのではないか。日本の政府は一夫一婦以外の男女の醜關係を是認し、出來るだけ其便宜を取計らふて居る。それ故監獄内の囚人には教誨師を設け、出獄後の便宜を圖る爲めには免囚保護事業を奬勵し、成る可く犯罪者の改過遷善を庶幾ふて居れど。遊廓に陷つて居る婦人に對しては往てこれに男女間の貞操を教へ、これを改善に至らしむるの途を全く杜絕して居るのは愚か、偶々彼等が改心して正業に遷らふとしても、これを所轄する警察官は彼等に說諭?を加へ、成るべく辛抱して長く醜業を續け、其人身賣買者なる樓主に金錢上の迷惑をかけぬ樣にせよとて、これを何遍でも貸座敷に逐ひ返す樣な取扱ひになつて居る。日本人は賣淫を是認し、男女間の貞節を破ることを公許して置きながら、口先でばかり其國民の風紀だとか、品位だとか空念佛を唱へて居る僞善國民である。さういはれるのが殘念と思ふ人は來つて私共と共に此廓淸會の運動に參加し、速に賣淫公許の制度を顚覆せん爲に力を盡さねばならぬ。

(二)飛んでもない忠孝主義

右の如き次第故、娼妓は世にも醜怪なる生活を營みながら其醜怪なる事を悟らさぬ樣に仕向けられて居る。よし又娼妓は不義なる商賣でありますから廢業しますなど申出でた處でこれを立派な營業として保護してある國柄であるから、そんな事ではどこにも通らない。隨つて日本の娼妓には醜業が惡い事だから廢業するといふ者はなくて、唯病氣だから、樓主に虐待されるから、借金が殖えて足が脫けぬから、それで廢業するといふ者しかないのである。賣淫を惡い事だと認められず、教へられず、隨つて亦然か思ふ事の出來ない日本の婦人は禍なる哉。それに就て思ひ出すのは、たしか今年の春のことであつたと思ふ。日本在留の或外國人が日本婦人に關する著述をするので、其原稿の中二三章を私の所へ持て來て之を朗讀し、其批評を求められたことがある。其中に其外國人が或宿屋に泊まつた時、傍に居る一日本人が宿屋の女中に向ひ、此前に來た時居つた菜といふ女中はどうなつたかと尋ねると。答へて男をこしらへて餘所に行つたといふ。お前はなぜ然ういふ好い人をこしらへぬかと問ふと。そんな人をこしらへて姙娠した時には困るからといふた。其話を引いて右の外國人が言ふには、此の如く日本の婦人の間には不品行が惡いといふ思想はなくて、唯姙娠でもした時身の處置に困るといふ位の觀念しかない樣であると、斯ういふことを書いて居るのを見て、大きに困り入つたのであつた。それは別の話であるけれ共今日、日本の遊廓で娼妓をして居る婦人に至つては、殆んど全く賣淫を惡い事と認めて足を洗ふなどいふ考がない樣に仕向けられて居る。惡い事どころか、或遊廓などでは折々坊さんを賴んで來て娼妓に說法させ、娼妓になつて親を助けるのは孝行である、澤山客を取つて樓主に儲けさするのは忠義であるといふ樣なことをさへ教へる由に聞及ぶ。忠

孝もこゝ迄濫用せらるゝに至つては眞に沙汰の限りである。

斯ういふ事情であるから私共が今日迄扱ふた廢業娼妓の中には、娼妓が惡い稼業だから之をやめるといふ觀念から廢業を思ひ立つた事が一向に見當らない。これは彼等の爲に不憫なことゝ感ずるのみならず、こんな風に道念の頽廢したる日本國民の前途こそ、眞に憂慮に堪ざるものがあると思ふのである。

(三)病氣で廢業を思ひ立つもの

然らば娼妓が廢業する一番の動機は何かといへば、十人が十人、大抵は皆病氣で稼業が出來ぬからといふのである。實際食ふ物も碌に食はさず、空腹ければお客に强請して食はせて貰へといふ樣な扱をされ、夜起きて居つて晝眠り、花柳病患者でも、肺病患者でも、色情狂でも、泥棒でも、放火犯でも、一樣に之に身を許さねばならぬといふ娼妓が、病氣になるのは當然の事である。彼等は又婦人の生命である愛情を蹂躙せられ、人の妻たるの榮譽を失ひ、母たるの望みを奪はれ、淸き家庭の樂みを味ふことの出來ないものである。精神的に言ふても彼等がヒステリー位起さぬのが不思議である。それ故彼等の中に病氣で稼業に堪へられない者が多くあるのは實際の事實である。それにも拘らず彼等の樓主は彼等を壓迫して、いやが應でも醜業を强ひる故、彼等の中から失望落膽して好い加減な相棒を見付、借錢で首もまはらぬ樣な男などゝ、所謂情死の名の下に自暴自棄の自殺を遂げる者があり、或は不圖救世軍のことなど聞付ては、縋つて來て廢業する者が出るのは極めて自然の事である。固より一方では樓主や警察が並大抵では廢業の志を遂げさせさうに見えぬゆゑ、病氣を口實に廢業を願ひ出づる者があり、そこを見ぬいた樓主や警察は亦遊廓附の醫者など呼んで之を診察させ、これ位の病氣ならまだ〳〵稼業に差支ないから、廢業などいはず、樓に歸つて神妙に働けなどゝ小言をいふて逐ひ返す樣な例は甚だ多い。何んぞ知らん、彼等無智なる娼妓が、若し主人が虐待するからといへば事面倒となるべく、借金が殖えてといへば、それは自業自得でないかと言ひ込められることが知れて居るから、其方の事は言ひ兼ねて、唯病氣を言草に其いやでいやで堪らぬ醜業をやめたいといふて居る心事は、誰も之をくみ取つて呉れる者がなく、彼等は尙引續き以前の不義なる生活に甘んじ、一生の嬲殺にせらるゝ外はない樣なことになつて居るのである。兎もあれ、私は今こゝに私共の扱ふたる廢業娼妓の中、病氣の爲に之を思ひ立たものが多いといふ事實に付、左に其二三の實例を擧げたいと思ふのである。

洲崎辨天町宮喜樓事高橋雄三方出稼娼妓藝名櫻木（本名だけは態と略す、但こゝに書いたほどの所書や姓名は悉く正確である、以下之に倣ふ）は本所區北新町某の娘である。娼妓になつたのは明治四十四年の三月で、前借は金二百拾圓手取金百六十圓。なつた理由は一旦他に嫁したる後、夫に別れ、子一人連れて家に歸らねばならぬことゝなつたが、家が貧しくて生活が立たぬので娼妓になつたのださうである。一年半

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

程の間に前後十六回入院した。長きは八週、短きは一週。病身で到底やり切れぬので、當人は手紙で賴んで來る。母は又其娼妓に出來た子を負ふて救世軍へ賴みに來るといふ始末。楼主は先頃の火事で燒け出されて家に保險をつけてなかつた爲め殊の外に困窮して居るものゝ樣であつた。士官は本人を連れて警察署に行くと、取調べの後名簿を削除せられた。其時此件を取扱ふた巡査部長が同人への話に、こんな體ならもつと早くでも廢業が出來たであらうにとの事であつた。そこで士官は其巡査部長に向ひ、娼妓取締規則の第十一條に「警察官署は娼妓の名簿登錄を拒むことを得、廳府縣長官は娼妓稼業を停止、又は禁止することを得」とあり、こんな大病人を警察では何故取しらべて、本人が願ひ出る迄もなく此方から之が稼業を停止、又は禁止することが出來ないのですか」と尋ねると。巡査部長は答へて、何れよく／＼調査して上官に具申するであらうといふ事であつた。

こゝに大阪市南區難波仲筋、眞砂、山本ひさ方出稼娼妓藝名吉六といふものがあつた。(これは難波新地の大火前の事である) 病身でとても娼妓稼業は出來ないのを、貸座敷では之にモルヒネを注射しては無理に客を取らせて居つた。其爲め中毒して果は三日にあげず人事不省に陷る樣な始末。他に仕方がないので兼て人から聞て居つた救世軍を賴つて東京迄飛び出して來たので、引取つて婦人ホームに置き、本人の廢業屆の外に別に救世軍本營から書面を難波警察署に贈り、終に其目的を果すに至つたのである。

吉原揚屋町定河内樓事生田こと方出稼娼妓藝名久方は愛知縣の者であるが、身體が惡いので歸國休養中、それが肺結核の初期であることが判かつた。最初は手紙で救世軍本營に相談して來、後には自分で上京して賴つて來たので、國元から肺結核といふ醫者の診斷書は持て來て居つたけれ共、念の爲め救世軍病院の院長松田醫學士の診察を受させた處、同じ診斷ゆゑ、これを士官が引連れて日本堤警察署に出で、手續をした上廢業になつた。

別に吉原江戸町西菊樓大貫かね方、藝名初菊といふものがあり、これも前同樣、病氣の爲め外出認可中どうしても娼妓は續けられぬからといふので、手紙で賴み、今度は自分で出て來て依賴したので相談相手になつてやつた。此婦人は三井慈善病院で診て貰ふたことあり、救世軍病院にもかゝつたのであるが、實際病身であるから士官が連れて行つて所轄警察署で其手續きをすることになると、楼主が出て來て何か娼妓と交涉したいとか何んとか言ひ出したが、本人が病みほふけて居て、苦しいから御免蒙りたいといふので、楼主も止むなく諦めて歸つたのである。

(四)樓主の虐待に堪へぬもの

病氣の爲に廢業を思ひ立つ者に次で多いのは樓主の虐待に堪兼て自由廢業するものである。元來貸座敷業者は部屋だけ貸すもの、出稼娼妓は部屋だけ借りる者といふのであるから、其間に虐待するの、されるのといふ樣な事の行はるべき筈が

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

ない。それがあるのは今も遊廓の中に昔と同じ樣な奴隷制度が立派に存つて居る證據である。規則の上では娼妓は獨立した婦人であれど、實際に於ては明かに貸座敷業者に金で買はれた物品であるから、貸座敷業者は否應なしに之を迫めさいなむ樣なことになるのである。

吉原角町稻辨樓事小林辨三方、藝名初音は醜業の苦痛に堪兼ね、廢業したいと思へども其法を知らず、涙ながらに勤めて居るうち親戚の方にて色々苦心したる末、差當り金二百圓を作り、それを以て合意の廢業を申入るゝこととなつた。此女は去明治四十年中、年季六ケ年、前借金三百圓、外にみず金百五十圓にて右稻辨樓に娼妓となり、約四年間勤めたものである。さうすると稻辨樓では腹心の女雇人に言ひ含め、該金二百圓を出して一時休業といふことにせよ、さうすれば後は好いやうにしてやると說き付させて其金を捲きあげてしまひ、休業はさせたけれ共廢業にはてんで應じない故、本人は其欺かれたることを悟り、救世軍に來て其助を求めたものゝ由、同人の話である。廢業して後暫く婦人ホームにて世話をなし、それから實家に返したのであるが、家に歸つて後の手紙に「みな〳〵樣にもいろ〳〵御世話樣にあづかり御禮申上候、私もかへりてより毎日神樣に御祈いたし居申候云々」といふて居る。

京都市上京區六軒區鍋町西入秋月樓吉田ヨシ方藝名權八は肺結核と肋膜炎とを患ひ、到底いつ迄も娼妓をしては居られぬと案じ煩らふて居る處へ、一人の朋輩女郎が主人から虐待を受け、二階から蹴落されたのが原因にて死んだを見て恐ろしくなり、廢業したいと思へども其途を知らず、樓を飛び出し知人を賴つて門司まで遁げのびた所が、そこには警察と裁判所に手紙を出すべきことを敎へられ、手紙を出すと共に引返して來て、大和の國に居る或知人の家に隱れて居ると、どうして探し出したものか樓主が周旋人と共に尋ね來て無理往生に京都に連れて歸り、周旋人の家に留め置て朝な夕なに借金の返濟を迫り、其爲に何處かに住み替へることを强請した。かくて一日樓主と同道にて警察に出頭し逃亡先より歸つた事を屆けると一緒に、是非廢業させて下されと願ふたが一向取り合ふて呉れず、翌日復出直して行き署長に面會を求めると。「署長さんはお前達の言ふことを聞く役ではない」といふて彈ねつけられ、取次でも呉れず、終に逐ひ返されたのみか、樓主の方へは「これ〳〵の者が廢業を申立に來たぞ」といふて警戒を加へらるゝ樣な始末。そこで斯うなつては到底自分の力だけでは駄目だと思ひ、以前或人から聞て居つた處に從ひ、際を見て上京し救世軍にたよることになつたのである。左は本人が保安課へ宛、差出さうとして果さなかつた手紙の寫である。

一寸おんねがい申上候さてわたくしこと五ばん町六けん町西入吉田よしかたのしようぎ、げんせきわ大阪ふ三島郡からさきむらの〇〇〇と申ものでありますが、このたびけいさつへはいぎようにまいりましたが、どおゆうものか、けいさつがはいぎようおさせてくれませんゆへに一寸お

んねがひ申ます、

はいぎようのりゆわ、わたくしがひごろからびようしんものゆへ、きやくのきげんも、どおしてもとれませんゆへ、おやかたにもきのどくゆへに、はいぎようします、としも三十三歳になりましたし、たんしんものです、又おやもなし、きようだいもなし、一とりものですゆへに、おやかたがあまりざんこくにあつかいますし、げんにほおばいのゆきゑと申すものが、おやかたに、にかいからけりおとされて、それがもとになつてしにました、それを、わたくしがきいてから、ますますおやかたがこわくてなりません、それゆへに、なにとぞ／＼はいぎようさせて下され、おやかたのざんこくなのわ、せけんでといあわせて下され、わかります、それゆへに、けいさつへゆうても、きいてくれません、なにとぞ／＼一日もはやく、はいぎようさせて下されませ、たのみます、もしきいてもくれませんときわ、さいばんしよへでてたのみます、くれ／＼もおんねがい申上候

一月十八日　○○○○

ほおあんかおん中

先頃洲崎の一娼妓は又其樓主から弄ばれ、そんなことは土地の風として出來ぬことになつて居るのださうで、それやこれやにて思ひ切つて自由廢業の決心をなし、救世軍にたよつて來たのがあつた。樓主の虐待が廢業の原因となる場合は甚だ多いことを知らねばならぬ。

(五)借金の足が脱けぬ爲め

娼妓が自由廢業をする其次の理由は、いつ迄經つても借錢ばかり殖えて先きの見込がないことである。同じ借錢といふ中にも一方には娼妓の顏が綺麗で、流行るものであるから、樓主が何んとか名をつけては金を貸したことにし、いつ迄も之を引留め樣とするのと、今一つは實際一向客がなくて借金が出來るのと兩方ある樣である。左に揭ぐる新吉原揚屋町定河内樓方○○○○といふ女は愛知縣のものであるが、父の病氣に金が要つたのと、又其寒い冬の日に車を曳いて居るのを見兼ねて居る所へ、或人から娼妓になれと勸められたので、來ては見たれど病氣ばかりして居る上に主人の扱ひは惡く、金は要るけれども成るだけ借金をすまいと思へば國から小遣錢を取り寄せねばならぬ樣な始末。終に廢業の心を起し救世軍に五回ほども手紙を出して賴んだ結果、終に其志を果すに至つたのである。其手紙の一部に云ふ。

八月の六日に見せにでましたが、からだがよわきため入院ばかり致して居ります、そのたびごとに御國本からこづかいおたび／＼とりますが、父もたまに一どぐらいなればよいが、たび／＼のことゝて父がところへはゆうてわやれず、ところがあまり病院に入院ばかり致して居りますから、おきやく樣わきてわくれませづ、すこしばかりのなじみも入院お致すたびごとに、すこしばかりのなじみもおちてしまひます、それかとゆうて、どすることもできません、これもわがみのからだのよわきことゝ、あきらめてわ居りますが、見せにかゝりてもなじみのないので、御主人樣にも色

々とゆわれ、そのたびごとに私もからだのよわきおかなしみ、なんと致したなればよいかと、ひびに心わくだけれども、これとても致しかたなく、まい夜／＼なかぬときわありません、ところがこのたび貴君様のおはなしおきゝ、その時私のよろこびわありません、じごくでほとけ様にあたようれしく思ひました、なんとか貴君様のところに手紙おだし、おちからをかり、はいぎよおさしていたゞけるよおに、おたのみお申上ますと思ひ居りましたところが、又／＼入院お致し、私わなくにもなけづじつにとほにくれておりました、これとても致しかたがありませんと、あきらめておりましたが、その内に父母のことを思ひだし、わがみのゆくすへのことお思ひ、いつそしんだがましかと思ひ、まい夜／＼なかぬ夜わありません、なにとぞ／＼私おふびんと思ひ下されましなれば、貴君様のおちからにて、じゆうはいぎよおさして下され、たのみます、この御主人様とゆうわ、まことにざんこくなかたです、みせもまことにきびしいです、それがためにみな、ほうばいわいやになつたとゆうております、病氣で入院おいたしておりますのお、すきで入院おいたしておるとゆうて、それわ／＼おそろしきことをゆうてよこします、それですから御主人様よりくすりおもちてくれとゆうても、それもとゞけてわくれません、たゞ／＼退院おせよとゆうてむりなことばかりもします、私わ今病院に入院おいたしておりますから一日も早く退院おいたしますから、どかはいぎよおさしてくだされ度候

餘り長いけれ共、日本一の大遊廓新吉原の中に、斯ういふ悲慘な生活をして居る娼妓のあることを知らしむる爲め、態とこれを掲げたのである。

(六) 無理情死を迫られて廢業

前に述べたる病氣と、樓主の虐待と、借金の殖えることゝは、娼妓が廢業を思ひ立つ最大の原因かと思はれる。最も別に廢業して情夫の許に行きたい爲め、出て來るのも隨分ある樣であれど、それは救世軍に賴つて來る中には餘りたんとない。唯救世軍に關係のない自由廢業には、そんなのが多いことゝ思ふて居るだけである。中には無理情死を迫まられ、そんなことから思ひ立つて救世軍に賴つて來た樣なのがある。それは北千住の佐野屋事峰崎林太郎方藝名初緑といふものであつたが、兼て體が弱い上に暫く前から通ひ來る客があつて、其男から無理情死を迫まられ、甚しく一身の危險を感じ、是非廢業したいと思へども見張りが嚴重で一歩も外へ出ることが出來ない故、色々苦心の結果、或夜三時頃屋根を傳ふて外に出で、二間餘りもある高塀に乘りうつり、忍び返しの間より身を躍らして飛び下りたるに運惡しく一時人事不省に陷りたるも、幸に通りかゝりの人に助けられ、車に乘つたのは好いけれども今度は其車夫から法外な金を請求せられ、難儀をした後漸く救世軍に賴つて來たのである。同人は其當時姙娠して數ケ月になつて居つた。廢業の手續をしてやつて國許に

歸りたる後、婦人ホームの受持士官に贈りたる手紙の中に次の如くいふてある。

なにからなにまで、ごしんせつに、をせわくださいましたのわ、かならづわすれることわありません、いろ〳〵くわしきをはなしを、母にはなしましたところ、母わなみだをこぼしてよろこびました、母もかならづこのごをんわ、忘れませんと申てをりました母もべつに御れい申上べくのところでしが、いちぢのじもかけませんゆえ、わたくしによく御れい申てくださいと申ました、母も又八十二さいのろをばも、なみだをこぼしてよろこびました、又ていしやばにわ、をぢと又村のそんちよさんが、むかいてくださいました、かならづ〳〵このごをんわ、わすれません、母もよろこんでくれ〳〵もよろしくと申ました、

（七）客人の墮落と稼業が厭な事

大變に長くなつたから最早好加減で片をつけねばならぬ。がこゝに今一つ二つ雜と紹介して置きたい廢業の動機があつて、其一つは遊びに來る客人の惡くなる有樣を見るに見兼ねてといふのと、今一つはつく〴〵娼妓稼業が厭やになつてといふものとである。左に掲ぐるは洲崎でお職を張つて居つた平野樓の萬龍といふ娼妓から來た手紙である。誰が代筆してやつたものだが仲々文章も文字も共に達者に出來て居る。

妾事は秋田縣本莊町に住居なし下賤なる職工の娘に御座候處一昨年一家の急を救はん爲め身を浮き川竹の苦涯に沈め申候

其後お客を取る毎にあさましき所行をせねばならぬ事は言ふに及ばず、御客樣の次第に墮落の淵に近づき給ふを見まゐらすれば身も世もあられず、この罪深き業が一日一日に厭になり申候

妾は樓中にてお職を張り居候程なればお客の數も非常に多く一晩五六人は珍らしからず爲に只今にてはあし腰痛みを覺え神經痛とやらに相なり申候、尙ほ本年六月始め腦貧血にて突然卒倒致し人事不省に陷り注射にて漸く氣付き候が其後十日間病蓐に打臥し申候本月も同じ病苦を繰返し候

かくては身體一日〳〵に衰弱仕り、末は如何相成り候やら、思へば身の毛も振ひ申候、何卒この悲慘なる境遇を不愍と思召されて、この苦涯をば逃れますやう、罪深き業をせでも宜しき身と相なり候樣、お救ひ下され度神かけて願上候、妾事この務を逃れ度と思ひ染めしは、昨年十一月の事に有之候が、其後今日まで一日も樂しと思ひ候事御座なく候、今年六月頃朋輩の中にて、「自由廢業の勸め」とか申すもの拜見仕候、妾の如きものにても尙お上の御情けにて自由の身となり得らるゝ事、並に貴救世軍にて一臂のお力をお添へ下さる由を承り、是に始めて自由廢業の決心を相定め候。

其後我が身の素振にて心の内を樓主にさとられ、爲めに國よりの音信は勿論、お客の手紙も開封せられ候、我が身は何處に行くにもおバサンは附き申し、全く身の自由を斷れ

候、さ候故訴へんに警察に行かれず、手紙は番頭などに邪魔せられて出すこと叶はず、廢業せんにも本意果たすことも出來不申候、閣下樣よ何卒ぞ貴尊のお助力にて警察に行かるゝ樣御心配願上候○若し警察に參り候はゞ如何なる事を申せば早速この願ひを開き濟みなるやら、此儀もお査べの上御敎指にあづかり度願上候○

まだ〳〵申上度き事山々なれども胸迫まりて思ひ出さず、何卒ぞ心中をお察し下されて御保護下さる樣くれ〳〵も願上候　　十月五日

此萬龍の廢業に就ては非常に興味のある物語があれど、それは後に改めてお話申すことゝ致さう○最後に今一通、吉原の政花井樓方奴といふ娼妓から來た手紙をお目にかける○

さつそくながら御たづねかた〳〵御ねがい申上ます、さてわたくし事吉原の政花井内奴事本なわ○○○○、二十一日にをねがいのをてがみだしましたがつきましたか、まい日〳〵いやで〳〵なりませんから、あさはやくをきて大もんまでゆきましたが、あとからばんとうがつけてまいりましたから、やもゑづかゑりましたが、あゝざんねんでなりませんから、あなた樣のほうゑをねがいのてがみを二十一日のあさだしましたが、つきましたか、なに事もてにつきませんから申一いかんせつに、御返事を下さいませ、○○○ためにいろ〳〵なめにあい、からだもよわくて思ふようにかせぐ事もでけません、なにとぞ御たすけ下されますよう、あなた樣のほうゑをねがい申まして、それがはづれましたなら、わたくしわ一めいをすてゝも、このつとめわいやでなりませんから、今わこうゆう事はいかんなれば、いかんと御返事をねがいます、あなた樣のをかげでさくねん二人りもでた人がありますから、一人りわ吉むらてつ、一人りは小松ちよと申ます人であります、小松ちよわいなかゑゆきましたが、せひとも御ねがい申上ます、申一じゆうはいぎよのでけんせつに、一めいをすてゝも、つとめはいやでなりませんから、なにとぞふびんなやつとをぼしめし下されまして、御たすけ下さいませ、前にもかいてありますが、○○わ六五かり、ねんは六ねんでありますが、三ねんと十か月つとめましたが、あとわ二ねんと二ッ月ありますが、今までに一日も一ときも、をもしろき日わありませんから、わたくしわ今そとにゆけばすぐしんでもかまいませんが、吉原でしぬ事はいやでなりませんが、申一いかんせつにわ、このばかぎり父はゝもあわずに一めいすてるかんがゑにてをりますから、なにとぞ御返事を下さいませ、一日もはやくをねがい申ますからね、よくともあしくとも御返事をねがいますからね、御返事まちます、まづわ御ねがいまで　　九月三十日

きゆせんぐん御しゆうじん樣へ

心ならずも斯ういふ苦界に悶え苦んで居る婦人があるのに、これでも娼妓は唯部屋を借りて自分が好きで醜業を營んで居るのだなどゝ、どうして言へるか、鳴呼私共は私共と同じ時代に存在する、此世界に類なき奴隷制度を打破する爲め奮闘せねばならぬ。

2－22

寄書

忘れられつゝある社會問題

垣上謙三

（一）

我國は明治維新以來世界稀に見る長足な進歩をして今や世界に於ける一等國の伍班に列するに至つた、併しながら一歩退いて此物質的文明の進歩に伴ふ弊害は果して如何であらうかを考へると、實に諸君が目の當り見らるゝ如く寒心に堪へないものがある。

私が今玆に陳べて見やうと思ふのは、近時漸く一部人士の注目する處となつて來た、彼の公娼廢止問題である、忘れられつゝある社會問題と表題を揭げた所以は、蓋し今日まで社會問題として學者政治家の論議せられたものは、只勞働者對資本家の如き、多くは物質的文明の輸入に從て其進歩に隨伴して生じたものゝみに止り、此廢娼問題の如きは、たゞ一部の道德家乃至は宗教家等に論せられて居て、汎く學者政治家の間の問題と爲つた事は無い。

（二）

試みに吾人第廿世紀の劈頭に立ち、古往今來の史を繙き、以て現代の社會的制度、現代の社會的理想、現代の一般生活、現代の社會的秩序を前代と區別する者は何ぞやと問はれたならば、私は現代に於ては。人は生れ乍らにして其人の社會的地位を定めらるゝ無形の束縛的鐵鎖が無くなつて來たことと答へるのを以て最も至當の事と思ふ。

即ち前代に於ては、人は生れ乍らにして其社會的地位を定められて居た、苟も此圈外に一歩も踏み出す事が出來なかつたのである。例へば貴族の子は貴族として。武士の子は武士として、如何に闇愚の者であらうとも、其父祖傳來よりの社會的地位に依て容易に社會の上層に威張つて居る事が出來、た、また不幸にして商家の子として生れたならば矢張り商人として、農家の子は農夫として、馬子の子は馬子として、漁夫の子は漁夫として、自己に如何に天才があり、識見があり、抱負があらうとも到底之を實行する事が出來なかつたのである、畢竟自己の社會的地位を定めらるゝ所以のものは、自己の天才に非ず、智力に非ず、又努力でもない、實に運命只之に依るのみであつた、嗚呼銳敏なる人の理智も之が爲めには終に遲鈍とならざるを得なかつたのである。

現代に於ては然うでない、人は生れ乍らにして、其人を定めらる可き社會的制度は夙に夙に除却せられた、各自は其天賦の能力と、後天的修養に依て各に其技倆に應じて、優勝劣敗よく其適當な地位を握取する事が出來る樣になつた、之が

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

爲めには人類の進歩發展した事は私等の殆んど想像も及ばぬ程なのだ。

（三）

もつとも往時束縛的の世に在つても、草莽の匹夫よりして位人身を極め、又不朽の盛名を竹帛に垂れたものもあつた。卑近の例で云へば豊太閤の如き其一人である、然れども是等は束縛的時世の例外反的抗の氣焔に過ぎない、當時は所謂戰國で、天下麻の如く亂れて居たからこそ彼の如き不世出の英雄が生れ出たのである、換言すれば社會の制度漸く紊亂し各自の能力を發揮する上に於て比較的障害が少なかつたからこそ、彼の如き天賦の能力乃至手腕の發揮を見る事が出來たのである、故に若し不幸にして德川氏時代の如く社會の制度舊に復し社會組織の動搖なき時代に生れしめたならば、彼に如何程の天才的能力があらうとも十分發揮する事は出來なかつたと思ふ、ア、尊重す可きは自由主義である、此主義なき社會に於ては到底榮達は望まれぬ、各自の十分な活動は出來ない、私達は現代の如き自由を以て基礎とする社會に生れたのは如何なるものを以ても購ふ事の出來ない幸福と云はねばならぬ。

斯く考へ來れば排斥す可きは實に束縛である。束縛は野蠻時代の遺風であつて現代には其存在を許す可からざる制度である、宜なる哉奴隷制度は現代文明國には其例を見ない、加之泰西諸國には今や盛に自由主義行はれて終には男女同權婦人參政權の運動さへも唱へられて居るではないか、又現に其主張の一部を認容した國もあるではないか、然るに今飜て我國の現狀を見るに明治維新以來自由を以て社會組織の基礎となし、之が爲めに測り知る事が出來ない程大なる進歩をなした、然るに驚くべし、茲に今尚ほ野蠻時代の遺風たる奴隷制度が公認せられ、帝國臣民六千萬人の一部は實に其制度に捕はれたる奴隷がある。何ぞや公娼卽ち是である。

（四）

論者中或は說を爲して曰ふ、公娼制度を以て往時の奴隷制度の遺風と爲すは甚だ其當を得たものでない。彼等娼妓は常時こそは一定の廓外へ一步も踏み出る事は出來ない、が併し乍ら相當の場合又は官憲の許可を得た時には自由の身となる事が出來る、古の奴隷の如く絕對に人格を認められない譯でもない、又一定の期間內は絕對に主人の命に反して其職を守らねばならぬ樣な境遇でもない、夫れ許りでなく自己の意思如何に依つては自由に廢業も出來るではないか、是をしも思はずして、古の奴隷制度と同一視するが如きは絕對に與みする事は出來ぬ、公娼制度を以て奴隷制度の遺風であるとするは甚紕謬論であると。

併し乍ら私は是等の論據を以て敢て奴隷制度であると主張したのではない、只私の云ふ處は婦人の貞操が黃金に依つて購はれると云ふ事此一點あるが爲めである、而して此一事を以てしても充分野蠻の遺風と云ふ事が出來ると思ふ。

東洋倫理の上に於ける貞操なる文字は、婦人に採つては最も尊重す可き者であり、濫りに他人をして犯すを許さない者である。若し此貞操が一度汚された曉には吾々人類の價値は全然没却せらるゝと云つても差支はない、假令此人身賣買の契約が双方任意的であり、自由意思に依つて結ばれたとしても、既に此制度がある以上は、是に依つて貞操を破らるゝ者日本全國を通じて數へたならば夥しい數にならう、是等多數の婦人は黄金に依つた購はれた一箇の形骸に過ぎない、如斯低廉な貞操が何處にあらう、否吾人人類の價値は如斯安價を以て購はれやうか、嗚呼斯うして人生の意義を失つた……何等禽獸と異らない多數の婦人が毎年吾々同胞の内から續出する、のではないか、宜なる哉古より幾多の婦人が此貞操を重ぜんが爲めには多大の辛苦をも敢て辭さなかつたではないか、婦人が此貞操を守ると云ふ事は婦德の第一要件である、唯一の生命である、是れ私は公娼制度を以て人身賣買の制度である、奴隷制度と何等異らないものであると、斷言した所以である。

（五）

搗てゝ加へて娼妓になる婦人の大多數否殆んど全部……と云つても差支はない……は其中間に在つて世話する周旋人に欺かれるのである。眞に父母を思ひ一家を救はんとする底の者に至つては實に寂寥々たるの有樣である、而して是等少數の憐む可き婦人が一身を犧牲に供した結果として得る金額を以て果して一家を窮地より救ひ出す事が出來やうか、甚だ疑はしい、東洋時論第三卷七月號には娼妓の生活と題して或貸座敷の主人の談話が出て居る、彼等婦人が娼妓となる經路も、之に依て得る金額等の事が詳細に書てある、今其中の一部分を拔萃して左に掲げやう。

先づ婦人が此社會に身を沈めるに至るのは、地方で此周旋を主にして居る者がある。勿論之等の大多數は公然營業を爲して居るのではなく何れも無頼漢の樣な者許りである。而して貸座敷の主人が娼妓の周旋方を此周旋人に賴む、すると此周旋人が兼て目星を付けて置いた女がある、其女の兄や父母の處へ行つて口から出任せの噓言を列べて巧みに彼等を誘惑する、例へば都會へ行けば綺麗な着物を着られる、美しい物を食べられる面白い物も見られる、好い男と思ふ存分巫山戯る事も出來る、又收入も多いから本人の心一つで歸る迄には澤山な貯金も出來ると云ふ樣に說き付ける、又其當人も周旋人に目星を附けられた位な女だから遂に行く氣にもなる、而して私が想像するには此種類の女でなく、至極眞面目なそして眞に一家を救ふ程の女に向つては又夫れ相當の噓言否武器を以て說き伏せる事と思ふ。

偖て其女が娼妓になつたとすれば如何程の金を手に入れる事が出來やうかと云ふに、例へば百圓で身賣せられた場合には先づ周旋人へは大體其金額の一割卽ち十圓は手數料として拂はねばならぬ、其外に身附金や着物や其他諸道具費として二十圓は是非入る而して百圓の半額五十圓は差引かれて其

年期の二分の一勤めねば受取れぬ、勿論中途で廢業した場合には當然沒收せられる、結局卽時に實際受取る金額、卽ち其女の兄や父母が他ののつぴきならぬ費用に充てる事が出來る金額は僅かの二十圓に過ぎない、然も殘酷な貸座敷の主人となれば其女の旅費も其内から差引かれる、としてあつた。

（六）

之に依て之を見れば彼等婦人が進んで此苦界へ身を沈めんとするものは至つて少數であつて、多くは周旋人の口車に乘せられて遂に玆に至るのである。又婦人唯一の生命とする貞操を犧牲に供して一家を窮地より救ひ出さんと企てゝも容易に出來得る者でない事は識者を俟ずして知る事が出來る、勿論容貌の美い女、又は遊藝の出來る女になれば夫れに從ひ其金額も上騰するには相違ない、が然し上騰するに從ひ總ての費用も重まるから、矢張り實際手に入る金額も其身賣金に比較して餘程の逕庭があるに相違ない、從て多大の犧牲を拂つて其得る所甚だ少いと云はねばならぬ、何たる悲慘事ぞ、況んや貞操が黃金に依て購はれると云ふ事は到底許す事が出來ぬとする以上、彼等婦人が身を犧牲に供した效果の如何に依て此問題を判斷する事は絕對に許す事は出來ぬ、加之些少の金額の爲めに……勿論其一家に就て云へば僅少の金額とは云へまいが……敢て自己の操を破らるゝが如きは尊重す可き人生の意義、婦人唯一の生命である處の貞操を輕々しくする者であつて、言語道斷の極である、私は絕對に許す可きでないと思ふ。

（七）

嗚呼同じく世界一等國として、自らも任じ、又他も怪まないに拘はらず、歐米諸國に於ては婦權擴張の問題が喧しく唱へられ、又或國に於ては其主張の一部も認容して居るに反し、我國に於ては婦人を玩弄物視して公娼制度、換言すれば古の奴隸制度を認めて居るが其差蓋し雲泥霄壤とのみ云ふ事が出來やうか、苟も世界一等國の伍班に列する以上は其物質的方面のみならず精神的方面にも重きを置き之が改善を企てねばならぬ。

昨年七月頃英國人某より東京市へ宛て此問題に付て反省を促された事があつた。此事たる我公娼制度あるが爲めに世界一等國の汚點を除却する事が出來ぬ結果であるとの思がする如斯は世界一等國たる我國の體面を損ふものである、蓋し他の社會問題は多くは泰西文明の輸入に伴ふものであるが、此制度は因襲の久しき我國固有の制度であるから殊に此感がする。

廣く之を云へば世界人類歷史上の一大汚點である、人類が萬物の靈長たる所以の道にも或は反しはせぬか、否或動物に依つては此貞操を重んじて居るものもあるではないか、之を以て私は此制度は人類の大恥辱である一日も存在を許す事は、出來ぬと云ふのである。

（八）

2—26

要之婦人の貞操が黄金を以て購はれる、然も輕々しくせらるゝが如きは言語道斷で、須く如斯制度は廢止せねばならぬ、而して婦人の貞操を尊重せねばならぬと云ふ事に歸着するのである。併し乍ら貞操なるものは婦人特有のものでない、男子も亦貞操がある、從て之が尊重せねばならぬ事は各自の義務であり、責任である事を自覺せねばならぬと思ふ。云ふ迄もなく婦人は男子の玩弄物ではない、男子と同じく權利もあり、人格もあつて男女互に助け合つて始めて健全な社會が出來るのである。故に兩者の負擔も亦均しからねばならぬ、一方を重く見て他方を輕んずるが如きは不條理の甚しきものである。

我民法親族編には女子の姦通は離婚の原因となるが男子の私通は其原因とはしてない、如斯は大なる不條理である、兩者の負擔の公平を保つたものでない、天理に悖るものである、吾人は大正の改元と共に男女互に須く貞操の重んず可き事を自覺し、漸を追ふて如斯法律は廢止し以て善良なる國民たらん事を理想として、努力せねばならぬ。

私は公娼廢止を唱ふるものではあるが、乍併其前に先づ男子が自己の貞操を守らねばならぬ事を自覺して貰ひ度ひ、男子にして自己の貞操を守らねばならぬと云ふ事を自覺したらば此公娼廢止問題の如きは恰も春の淡雪の如く直ちに解決が着く、此問題解決の鍵は彼に非ずして自己に在るのである、須く自らを顧みて各々覺醒せられん事を切に希望するのである。

社會紊亂のバチルスを滅せよ

神戸矯風會　奥山たつ子

（一）　大正の男子に望む

今や社會は醜陋見るに忍びず、汚穢接するに堪へざる不道德のバチルス充滿せり。廓清會は之が剿滅の爲に起り、幾多の男子が最愛の妻を忘れて顧みざるに至る源泉を根本的に取り去る爲に奮起し、又一方矯風會は主意とする一夫一婦の建議案を、貴衆兩院に提出する等、專ら社會矯風に努むと雖、悲しい哉萬人の師表たるべき多數の貴族紳士の淫風は既に深く泌み、不德の暴狀は自ら文明國と誇る日本國民として慚愧に堪へざるものあり、上流社會既に如斯、下流無學の輩に至りては卽ち知るべきのみ。慨歎耳を掩ひ眼を開く能はず、其裏面には常に恐しき悲劇潜む、日本上流の婦人にヒステリー性多き原因は實に男子の不道德にありて存す。乃木大將の死は此の如き人々に覺醒を促す爲に血汐の洗禮を與へられたるものといふべきか、明治は行きて新らしき大正の春を迎へたる今日、古き祖先傳來の不道德の惡風を捨て、一等國民の名に背かず。大に敬虔の心を以て自覺自重あらん事を男子方に望む。

（二）大正の母たる人に希ふ

母なる人年頃の娘を持たれんか、其心勞は中々にして寸時も忘るゝ事なく注意し、外出する自由も許さず監督して大切に保護し人の妻たらしむ迄の苦心は一通りならず。然るに入嫁後は其良人の不身持の結果離別となる時は、社會の人は出戻りとて此憫むべき婦人を疵物なりとて再び初婚の人に嫁するを許さず、一方男子に至りては社會は何等制裁を加ふる事なく、而も其後へ初婚の女子又は關係ある婦人を入れ、平然として顧みず、實に此處に至りて社會の矛盾、女子に對する無情歎ずるに餘りあり、神の子として一人々々惠の露に浴する萬物の靈長たる人間は男子女子と雖道德に二つなし、男子も其青年時代より身を清く守り、一度婦人に接するか又惡所に通ふ等の事あらば、其青年男子は即ち之を疵者として決して初婚の女子をめとる資格なき者として、母たる人の大英斷大決心を望まんとす。

（三）根本的社會廓清は婦人の自覺にあり

根本的に社會の不德を廓清するには今日の如く祖先傳來の誤りし道德心發達し、多くの男子は女子を度外し、吾妻は到る處にあり天下廣しと、破廉恥沒常識を以て得意となし、婦女子を恰も玩弄物の如く心得るものは、これ一に女子其者が下劣にして自覺の力なきが故なり。大正の今日一等國民として各國婦人と手を握り事業を共にする吾矯風會は、かゝる哀むべき婦女子の爲社會廓清の爲大に力を盡し、根本的自覺々醒を促す爲に相携へて婦人が悉く人格の向上を圖り、堅忍自重不倫不德の男子をして乘ずるの空地無からしめたらんには、狂人も一人狂する能はず、遂には社會を自然に清掃し得るならん。吾が矯風事業も多々益々有望にして奮鬪努力を要する事大なり。

（四）廓清に伴ふ母の大任

一度中風に冒されて腰抜けしたる上は、中々舊に復する事難し、よし腰の立つやうなる共、ぶる〳〵打ふるひて誠に危き事風前の燈の如し。今日の多くの男子の道德は恰も中風病の如し、獨身中に不德不倫の病に犯され、一時珍らしき妻なる藥によりて快復するとも、一度犯されたる病根は奥深くねざして再發す、最も甚しきは其妻姙娠中の暫しの間にさへ發する事あり、如此死者に等き病人は如何なる藥も其効更に無し、かゝる輩が社會にバチルスを散在さする危險實に苦々しとも又怖しき哉、此の死病に取付かれたる人々は唯神によりてのみ救はるべし、此後社會に立つ大切なる青年男子を持たるゝ方は、犯し難き母なる威厳を持ち、此風の病に冒されざる樣の注意をなす事は、實に廓清に伴ふ母の大任にして、社會紊亂のバチルスたる此制度の打破は、男子のみの問題にあらず、同性の凌辱として、婦人の奮起を要する大問題といふべし。

遊廓設置運動と最近の自殺

京都　風馳生

貴會日々御隆盛の段奉大賀候、當地遊廓は御承知の如く、追々減少せられ甚喜ぶべき事と信じ居候○然るに本月七日附を以て、京都市下京區高瀨通五條下る都市町蜂須賀正治郎外八名より都市町全部を遊廓地に爲し度旨を以て、京都府知事宛にて願出でたる趣に有之候、大典を目前に控へある事なれば定めし知事とても許さゝる事とは存じ候へ共、此際遊廓設置を出願する蜂須賀正治郎外八名は、現今貸座敷業を營み居りつゝある者にて、其新設理由としては都市町なる處は、殆んど遊廓地と同一の所にして要するに遊廓を擴張するに過ぎず、何等差支なきを以て許可云々、と有之候へ共何か他に事情ある者と存じ目下内偵中に有之、不取敢御參考迄御通報申上候、尚本件は或確なる處より一昨八日聞知したるものに候、近來自由廢業したる者左の九名に有之御内報申上候○

一、原籍　宮崎縣南那珂郡細山村字秋ノ獄
　　當時　鹿兒島市鹽屋町田成樓事石山清一方娼妓芳子事
　　　　　荻野キネ(明治廿二年一月生)
明治四十四年八月二十七日登錄、年限三年六ケ月、債務百八十四圓卅七錢四厘　右十一月七日病氣の故を以て自由廢業

一、原籍　岡山縣久米郡加美村二八七五
　　當時　島根縣松江市松江分五二八ノ四
　　　　　杉山喜志(明治廿二年七月生)
債務四百七圓十五錢不拂の儘十月十九日廢業

一、原籍　大阪府泉北郡舳松村町一五四
　　當時　熊本縣飽託郡宮町若松樓方
　　　　　中田ミサヱ(明治二十二年二月生)
債務二百六十圓八錢不拂の儘十月二日廢業

一、原籍　熊本縣飽託郡御幸村上木部
　　當時　同郡宮町村濟吉樓
　　　　　村上トメ(明治二十二年二月生)
債務五百圓十一錢二厘不拂の儘十月二十八日廢業

一、原籍　新潟縣長岡市長物町七十四
　　當時　神奈川縣橘樹郡川崎町新宿三浦樓事平野蘭四郎方初開事
　　　　　小林スヱ(明治二十四年九月生)
稼業未濟期限大正三年十一月九日　債務未拂高百二十圓六十七錢右十月十九日病氣全快の見込なき理由にて廢業

一、原籍　東京赤阪區檜町九士族近宗二女
　　當時　橫濱市永樂町二丁自二宮樓事高橋ムメ方いろは事
　　　　　大給なつ(明治二十三年二月生)
稼業未濟期間五年五月債務未濟五百二圓右十一月九日病氣の故にて廢業

一、原籍　秋田縣橫手町字下町三之助三女
　　當時　岩手縣盛岡市八幡町石村ミサ方大島事
　　　　　生出ヨシ(明治二十六年四月生)
右十一月十二日債務四百二十七圓四錢不拂の儘廢業

一、原籍　愛媛縣喜多郡大瀨村四七三
　　當時　岡山市大字東中島町一四〇
　　　　　今道クマヨ(明治二十六年十月生)
債務百十四圓不拂の儘十一月二十日廢業

一、原籍　岐阜縣岐阜市下大桑町七
　　當時　橫濱市永樂町一丁目金濟樓事加藤金太郎方松山事
　　　　　片桐みき(明治二十年十二月生)
稼業未濟年限大正六年六月二十日　債務六百三十六圓三十六錢不拂の儘十一月四日病氣の故を以て廢業せり

雜誌の雜誌



（宗教）

▲本邦宗教各派全國分布一覧

大日本宗教協會主事 井上泰岳

各教派の全國に分布せる状況を紹介する爲めに、各府縣に於ける各信徒の數を列擧する。之は内務省宗教局の調査に本づいたのであるが、人口數四千九百萬といふのは戸籍簿に依り調査したる本籍人に在監無籍人を加算したるものといふ説明になつて居る、臺灣樺太朝鮮及び外國に在籍せる數は此中には加はつて居ない。各教の信徒數も左の數字に對しては多少不審の點のないではない、例へば前號誌上に掲げた信徒總數は、神道は一千三百萬餘人となつて居つたが、本誌の合計は一千五百萬に上つて居る、佛教は前號では五千萬といつたのが本誌上の數は二千萬に過ぎない。基督教の數は本誌の合計が稍多いけれども大差はない。要するに極めて杜撰な統計ではないかといふ批難もあらうが、それは各派の教務所から報告して來たものに就いて甚しき疎漏のない限り其數字を纏めたものであつて、斯樣な調査は一面は各人個々の信仰にまで關係して居るのであるから、精密適確に數字を計上することは全く不可能である。

故に私の精神は之に依つて大勢を知つて貰う參考に供するのである。何縣に於ける神佛耶の勢力比較は何うであるか、何地方に於ける何教の勢力は何の位のものであるか等に就いて考ふる時の參考材料にして貰ひ度いのである。そういふ意味に於てならば必ず十分役に立つ統計であることを信ずる、そういふ點に於て一層便利なる爲めに、人口數に對する百分比例等を加へ度いと思ふたけれども、編輯時期の切迫した爲めに出來なかつた。

内務宗教局では左の統計表は一層精しいものがある即ち各教の各派の信徒數がそれぞれに各府縣に計上されてある茲には餘り煩雜になるから之を略した、故に一層精しく現狀を知らんことを望む人は宗教局に就いて其統計表を調べて貰ひ度い。

道廳及府縣	總人口	神道	佛教	基督教
北海道	一、一三七、四〇〇人	一八五、〇〇〇人	二二六、六〇〇人	九、二〇〇人
東京	一、八七四、四〇〇	九五〇、六〇〇	二、〇四四、六〇〇	二〇、一〇〇
京都	一、〇三二、四〇〇	四〇二、〇〇〇	六九五、〇〇〇	四、五〇〇
大阪	一、五六三、一〇〇	五一六、〇〇〇	八一〇、七〇〇	八、二〇〇
神奈川	九四二、七〇〇	二二一、一〇〇	四一四、八〇〇	六、二〇〇
兵庫	一、八八三、五〇〇	六六六、六〇〇	六四七、八〇〇	五、九〇〇
長崎	九四五、〇〇〇	三八八、七〇〇	二三五、三〇〇	三六、七〇〇
新潟	一、九五五、九〇〇	三〇三、八〇〇	五二五、七〇〇	七〇〇
埼玉	一、三〇四、三〇〇	三八七、九〇〇	五三一、三〇〇	九〇〇
群馬	九一三、五〇〇	三八七、八〇〇	三二〇、六〇〇	二、七〇〇
千葉	一、三八四、七〇〇	二六六、七〇〇	一、八六五、五〇〇	二、九〇〇
茨城	一、二七三、一〇〇	三二〇、四〇〇	二八一、一〇〇	一、四〇〇
栃木	九二三、二〇〇	三八九、二〇〇	一九二、九〇〇	一、四〇〇

奈良	五九五、六〇〇	三〇二、六〇〇	三五四、三〇〇	五〇〇
三重	一、〇九二、八〇〇	二五三、三〇〇	三五六、四〇〇	七〇〇
愛知	一、七八九、二〇〇	三七八、八〇〇	六〇五、〇〇〇	一、九〇〇
靜岡	一、三七九、五〇〇	四一二、一〇〇	五三一、七〇〇	一、三〇〇
山梨	五七三、二〇〇	一八一、四〇〇	一八〇、〇〇〇	一、一〇〇
滋賀	七五九、九〇〇	一〇三、三〇〇	二〇八、六〇〇	五〇〇
岐阜	一、〇七四、八〇〇	二二六、六〇〇	二〇七、三〇〇	三〇〇
長野	一、三九三、五〇〇	三五三、一〇〇	五五三、三〇〇	一、六〇〇
宮城	九五〇、二〇〇	三〇〇、八〇〇	二八八、九〇〇	五、八〇〇
福島	一、二二五、四〇〇	三七六、七〇〇	八四三、一〇〇	一、七〇〇
巖手	八〇〇、五〇〇	一七四、〇〇〇	四一二、二〇〇	二、三〇〇
青森	七一六、一〇〇	八四、七〇〇	一九八、三〇〇	八〇〇
山形	九三八、〇〇〇	一一五、八〇〇	四〇一、〇〇〇	一、一〇〇
秋田	八九三、九〇〇	一〇九、六〇〇	三三八、七〇〇	七〇〇
福井	六六六、五〇〇	四六、五〇〇	四一〇、四〇〇	三〇〇
石川	八二八、八〇〇	二三、二〇〇	九四、一〇〇	六〇〇
宮山	八二九、六〇〇	四〇、五〇〇	一五二、七〇〇	一〇〇
島取	四五二、四〇〇	五六八、一〇〇	三六四、六〇〇	四〇〇
島根	七五七、七〇〇	六五五、四〇〇	一八八、九〇〇	三〇〇
岡山	一、二二六、〇〇〇	七五六、一〇〇	八一八、〇〇〇	二、七〇〇
廣島	一、五九五、二〇〇	四九五、三〇〇	六七三、〇〇〇	一、四〇〇
山口	一、〇六八、九〇〇	四八三、一〇〇	三七八、〇〇〇	八〇〇
和歌山	七五四、二〇〇	三一九、八〇〇	二八四、一〇〇	八〇〇
廣島	七四九、八〇〇	四五四、五〇〇	六九六、五〇〇	一、〇〇〇
香川	七五五、六〇〇	三三〇、九〇〇	七四一、八〇〇	三〇〇
愛媛	一、一〇一、一〇〇	五七七、二〇〇	七七六、六〇〇	二〇〇
高知	六八一、七〇〇	三六五、三〇〇	八七、九〇〇	一、四〇〇
福岡	一、五八七、八〇〇	六七五、六〇〇	四一〇、一〇〇	四、三〇〇
大分	九〇五、二〇〇	三五八、六〇〇	一九九、五〇〇	四〇〇
佐賀	七〇三、五〇〇	二八〇、三〇〇	二九〇、五〇〇	一、二〇〇
熊本	一、二七六、二〇〇	四〇八、八八〇	一〇六、九〇〇	二、三〇〇
宮崎	五二九、八〇〇	一六〇、五〇〇	八二、三〇〇	六〇〇
鹿兒島	一、二九九、二〇〇	九五、七〇〇	二〇、四〇〇	三、六〇〇
沖繩	五〇一、八〇〇	二、八〇〇	一、八〇〇	七〇〇
合計	四九、五八八、二二七人	一五、八六八、九二七人	二〇、九六六、二七四人	一四九、九六七人

▲米國教勢の一班

井上良民

私は是より地圖と統計とによつて北米合衆國本土に於ける基督教各派の消長を一通り話して見たいと思ふ先づ現今米國の人口は總數九千百餘萬である其中基督信徒の總數は三千五百三十三萬二千七百七十六人であるが故にこれを其總人口に割當てると千人に對し三百八十五名となる即ち約四割となるのである、今左に諸項目を擧げて説明して見よう。

第一、團體

先づ基督教各派團體の統計的消長を述ぶれば、千九百〇六年の中央政府の宗教事情に關する大統計によれば團體の總數は二十一萬二千二百三十である。而して是は百八十六の派から取つた統計である、細別すれば百七十二の新教各派、天主教、モルモン宗、ギリシヤ正教十四の小教派よりのものである。今千八百五十年より千九百六年に至る五十六年間の團體進歩の跡に左に數字に表はして見ると、

年代	團體數	增加數	割合
一八五〇	三八、〇六一	——	——
一八六〇	五四、〇〇六	一五、九四八	四一、九%
一八七〇	七二、四五九	一八、四八〇	三四、二%
一八九〇	一六五、一五一	九二、六九二	一二七、九%
一九〇六	二一二、二三〇	四七、〇七九	二八、五%

以上の如くなる、割合の多少はあるけれども兎に角年々歳々增加して行きつゝあることは明である。

更に新教中優勢なる教派の團體について數字を以つて示せば左の如くなる。

教派	團體數
美以	六四、七〇一
浸禮	五四、八八〇
長老	一五、五〇六
ルーテル	一二、七〇三
クリスチャン	一〇、九四二
監督	六、八四五
會衆(組合)	五、七一三
同胞	四、三〇四
獨逸	二、七三八
レフォームド	二、五八五

第二、教會員

會員の總數は前項に於て三千五百餘萬であると云つたがこれは千九百十年の統計である、今こゝには千八百九十年と千九百六年との中央政府の調査に從つて其消長を見て見よう

年代	會員數		
一八九四	二〇、五九七、九五四	新教	一四、〇〇七、一八七
		天主教	六、二四一、七〇八
		其他	三四九、〇五九
一九〇六	三二、九三六、四四五	新教	二〇、二八七、七四二
		天主教	一二、〇七九、一四二
		其他	五六九、五六一

今以上の增加の有樣を見れば

全體	一二、三六七、五三〇	六〇、四%
新教	六、二八〇、五五五	四四、八%
天主教	五、八三七、四三四	九三、五%

是に因つて見れば千八百九十年より千九百六年に至る會員の增加率は天主教が九十三割半に對して新教が四十四、八割になつて居る、即ち天主教の方が速度の增加率を示して居る、其理由は種々あるであらうが最も大なるものはかの年々百萬を以て數ふる歐洲移民の流入である、殊に近年の移民の最大多數は南歐の天主教國より來るものであるが故に以上の如き增加を來したものと思はれる。

新教中優勢なる教派の會員の增加率を表示すれば左の如くなる。

教派	一八九〇の會員	一九〇六會員	增加	割合
美以	四、五八九、二八四	五、七四九、八三八	一、一六〇、五五四	二五、三%
浸禮	三、七一三、四〇八	五、六六二、二三四	一、九四九、七六八	五二、五%
ルーテル	一、二三一、〇七二	二、一一二、四九四	八八一、四二二	七一、六%
長老	一、二六七、八五一	一、八三〇、五五五	五六二、七〇四	四四、三%
クリスチャン	六四一、〇五一	一、一四二、三五九	五〇一、三〇八	七八、二%
監督	五三二、〇四八	八八六、九四二	三五四、八九四	六六、七%
會衆	五一二、七七一	七〇〇、四八〇	一八七、七〇九	三六、六%

第三、各個教會の會員數

一個一個の教會に屬する會員數の平均を調査して見ると教派によつて種々なる相違を現はしてくる。今左に舊教と新教との實狀を擧げて見れば

教派	教會平均數
天主教	九三九
希臘教	三一五
獨逸舊教	二四五
新教	一〇四

此表に依て見ると舊教各個の教會員數は新教の夫れと比べて非常に多數である、其理由は第一舊教が一種類で有るに反して新教が多數の教派に分れて居ると云ふ點にある例ば三百の天主教信者の住居せる小邑には一個の天主教會が立てらるゝであらうに、若し其三百が新教の信者であれば其中にはメソヂストもあらうし監督もあらうし長老もあらうし組合もバプテストもあると云ふ譯で隨て五ツ六ツの教會が其小邑に打建てらるゝととなる、即ち舊教の方では其三百名の信者を一個の教會に收容するのには新教の方では數個の教會

に引分ることとなるのである。第二、教會の存在する地理的關係に依て大なる差が顯れて來る。教會が人口の稠密な都會にあるのと人口の稀薄な地方に散在するのとでは自ら各個教會の收容する會員數に大小の相違が生じて來るのである舊教は殆ど大部分都會に建て居る、而も最も人口の密集せる歐洲移民の住まう區域に多いのである、然るに新教は都會と云はず地方と云はず全國に普く散布されて特に人口稀薄なる地方に其大部分が立つて居る有樣である。

結局新教が徒らに分派のみ多くして限りある教會と財力とを分爭するが爲めに甲乙共に餘裕なく發展なく否自らの存在さへも危くして居る。其事情は須らく舊教の長所に學で改善する處がなければならぬ。

第四、男女の比例

近來頻りと歐米では基督教會に集まる者は婦人のみで男子は甚だ少數であると云ふ聲を聞くが、果して然らば米國の基督信徒の男女の比例は如何なる者であらうか、一考の價あることゝ思ふ。

教派	男	女
全體	四三、一	五六、九
新教	三九、三	六〇、七
天主教	四九、三	五〇、七
希臘教	八五、二	一四、八

此統計に隨へば米國基督信徒一般男女の比例は四半五半の割合である、新教では四分六分である、天主教では殆んど五分五分である、獨り希臘正教のみは八分二分と云ふ優勢なる男子の數を示して居る。勿論之はスラヴ族(即ち希臘正教信者)の移民が米國に流入し始めたのが極最近なので隨て其移民の多數は青年壯年の男子であつて未だ婦女子の渡來と云ふ處迄に至らないと云ふ事實に其理由が存するのである。

然らば天主教の割合が五分五分であるのに對して新教の割合が四分六分と云ふ婦人優勢の實狀を示して居るのは抑も如何なる理由に基くのであらう、之は最も興味ある然も複雜なる研究問題である。今茲に重なる新教數派の會員男女の比例を數字に徵して見ると左の如くなる

教派	男	女
美以	三八、五	六一、五
浸禮	三八、五	六一、五
ルーテル	四六、一	五三、九
長老	三七、九	六二、一
クリスチヤン	四〇、〇	六〇、〇
監督	三五、五	六四、五
會衆	三四、一	六五、九

之に依て見ると新教全體に婦人の數が男子の數に超て居るが、殊に尤も智的に發達して進歩的なる會衆派が婦人の數男子に超過して居る割合に於て第一位にあるのは頗る妙である。之れ男子が教會に少いのは教會の智識思想の方面が餘りに保守であるからだと云ふ理由のみでは充分に說明とならない譯である。果して然らば宗教はより多く婦人に必要であつて男子には夫れ程必要なものでないと云ふ譯であらうか、勿論左樣な論理の立つべき筈のものではないのみならず社會が複雜となり生活難の壓迫が甚數なるに伴れて之に苦戰奮闘して行く處の人が胸中別に閑日月を渇仰して止まないのは自然の道理である、米國人の中最も活動せる人に付て其心の奧扉を叩いて見れば上流の人と云はず下等の勞働者と云はず皆此渇仰煩悶を有して居ることを發見するのである。然るに尙男子の數が教會に於て大に減少して居るのはそも何故であらうか今左に二三の理由と信ずる點を考て見たい。

第一、教會の精神が依然舊體を改めずして千遍一律、單調なる形式に止まり、急激なる社會の變遷、思想の進歩に伴はないからである。

第二、教會の實務が現代的ならざること、活動の方法が徒に過去の遺骸を擁して更に新事實と新境遇に接觸する處なきが故である。

第三、教會のリーダーたる牧師に教祖イエスを偲ばしむる程の確信ある人格の乏しきこと、即ち人道の猛烈なる勇者に乏しきが爲めである。

若し眞にイエスの信念を體得して、眞理と信ずる處を四圍の壓迫に屈することなく闡明し、社會人道の爲め神の聖旨と確信する處は何者の誘惑威嚇をも恐るゝことなく大膽に奮闘激勵する底の強き預言者の教壇に立つあらば、其赤誠は必ず四方に義人を起すべく。斯くて教會は新生氣に充ち、志ある人道の士は青年と壯年とを問はず上流下流を論ぜず、教會に集り來て社會の爲め人道の爲絕世の人格イエスの戰友たることを無上の光榮とするに至るであらう。然るに人種問題の壓迫資本主對勞働者の衝突等多々人道の士の奮起を要する現代米國の社會に於て、使命を天より享け居る基督教會が徒に惰眠をむさぼれる、其のリーダーの何等預言的氣概なく只管衣食の道の易からんとのみ念とせる、是畢竟教會不振の最大原因であつて男子を教會に引き付け得ざる根本の理由である。(基督教世界)

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

○世界物語

▲英獨米の印象

△反省を要する英國△第一等を期する獨逸△金を中心とする米國

今春日本を出發し歐米各國の實業狀態を視察研究して先頃歸朝したる滿鐵庶務課長久保要藏氏の談左の如し

▲英國民の反省　予は最初先づ英國に赴き倫敦に三ケ月地方旅行に一ケ月を費やし同國上下の民情並びに殖産工業及び商取引に關する實情制度の大態を視察したるが其國民が概して上品優雅にして初見參の旅客に愉快の念を起さしむることは到底我日本國民の及ばざる所否恐らく世界廣しと雖も此點に於て英國の右に出づるものなかる可し是れ全く過去數世紀間に於ける英國民が力戰奮鬪の結果外には世界に跋扈したる和蘭の通商航海權を奪へると共に殖民の擴張を圖り内には製造工業を盛んならしめ英國市場をして世界貨物の集散地たるに致らしめたる結果遂に富強宇内に冠絶するに至りしかば國民の生活狀態に餘裕を生じて次第に品位を重んずるに至りしに因るものなる可し即ち目下英國は文明殷富の最極點に到達せるものなれば國民の性情が之れに劣れる他の諸國に比して鷹揚優雅なるは當然なりと云ふ可し然れども斯くの如く國勢隆興の頂上に達したる結果は一面より見れば國民の品位を高尚にして眞の文明國たるの感ありと雖も更に他の一面に於ては國民を遊惰ならしむるの嫌ひなきにあらず富力文明の極度に發達したる曉には人民が文弱遊惰にながれやすきは古來東西の歴史に珍らしからざる所今日の英國亦其一面に此の弊を馴致せるは蔽ふ可らざる事實なりお國自慢の英國人夙夜時を惜みて其業に勵める獨逸人を目して穢多卑人の如く蔑視し是と共に齒するは大英國民の人格を傷つくるものなりとて頗る高く止れる樣なれど然し今日の實狀は着々として是等英國民の傲語をして估券を下げしめ居れり即ち獨逸國民の世界を支配せんてふ意氣は磅礴として英國の勢力範圍に押寄せ日一日と是に取て代れるを以てなり、左は英國に於ても有識者社會に於ては夙に此點に着眼し今日に於て大に反省せずんば終に和蘭葡萄牙の轍を踏む可きこと遠きにあらずとなし演説出版物に盛んに國民を覺醒して其反省を促さんと努め居れり殊に其怠惰者の多數なるに就ては心ある者の頭腦を惱ませること尠からず

▲軍隊的なる獨逸　歐洲大陸に於て旭日冲天の勢を示めせるものは獨逸なり其國土に對する天然の幸福は到底佛國露西亞に及ばざること遠しと雖も其國民の膨脹發展的意氣に至りては恐らく世界に其比を見ざる可し國民一般の風俗は英國民に比すれば頗る粗野にして到底同日の談にあらず否如何に訓練を施すとも獨逸人をして英國人の如く上品に馴致することは殆ご不可能なる可しとの感を抱かしむる程なり然し獨逸國民の大望は今日の小成に安じて偸安佚樂の夢を貪ることを許さゞるなり彼等は其國家を世界第一等の地位に置きて地球上の人類が悉くカイセル朝貢する迄は枕を高うするを欲せざるもの〻如し左れば國民各自が日常の業を勵むと共に智識慾頗る盛んにして日新文明の學問に浮身をやつし此の學術に依て得たる所を突飛とおもはるゝ位に實際の事業に應用して奇を衒つるに吝ならず且つ國民の氣風は英國人の如く優雅ならず又米國人の如く犀利猾潮たる才能を有せずと雖も粘着力頗る強く一旦物に志したる上は面壁九年尙ほ辭せざるの根氣あり又規律正しくして法律規則を遵奉するの美風あり此の點は英國人が自尊自治の特性より學て法律規則の勵行を補助すると同一の結果を示めせり而して是を率ゆるの爲政家亦國家の勢力膨脹發展を以て其心となせるが故に總て市井の瑣末に至る迄秩序整然一絲亂れざるの概あり總て軍隊的にして見方によりては又一種の快感を禁ずる能はず

▲獨逸の米國　人はよく北米合衆國を指して單に米國と云ひ又其國に住する人民を指して米國人と謂ふと雖も予は今回の旅行によりて眞の米國は漸次滅亡して獨逸の殖民地と化しつゝあることを發見したり予は我日本國が世界に紹介したる米國又三百年前ワシントンの麾下に團結し英國の羈絆より脱したる十三州民の氣高き風格を偲びて常に米國々民を敬慕したりしも何ぞ計らん米國の國情は大に其趣を變じ今日は所謂米國人よりも未だ同化せられざる歐洲移民の數遙に多く殊に獨逸人の勢力に至りては實に凄じき程なり現にシカゴ市の如き總人口二百萬人の中ネーチヴ、アメリカンは僅かに卅萬人にして他の百五十萬人の内獨逸人五十萬人を占むるの狀況なり然し流石に大抵亞米利加語を使用し居れりと雖も或地方には全然獨逸語を用て日常の生活狀態も獨逸本國と何等の相違を認ざる所なきにあ

らず無論其他に伊太利人希臘人等の移住も少からず至極雜然たるものにして渾然たる一國家の體裁を形成する迄には尙ほ前途遼遠なるごとく各人皆金錢問題の外眼中無一物にして富を得んが爲めには禮儀作法迄も犧牲として顧みず現に或大會社の如きは商用の通信文に於て冒頭と末尾の形式的挨拶を省略するとせば是に要する時間と勞力を一ヶ年に積算して數萬圓を節約し得可しと云ひ又人がネクタイを用ふるは虛飾に過ぎず是も全廢するとせば莫大の生産力を他に轉ずることを得るのみならず着服脱衣の際に全國民が之に用する時間を節約し得るが故に總體に於て幾許の勞力を生じ得可し抔との議論をなすものあり又是等の說が國民を傾聽せしむる程にして到底英佛諸國に見られざる所なるのみならず比較的粗野なる獨逸に於てさへ想像も及ばざる所なり此を以て大抵英獨米三國が今日如何なる狀態にあるかを想像するを得可し。（時事）

▲結婚禁示法令

△人種改良の爲め

人種改良論が八釜くなつて來てから諸種の考案がこれに就いて發表された。即ち飲酒は其子孫に害毒を遺し又肺病患者も然うであると其の研究に怠りない。そこで此の人種改良と云ふ**▲世界的事業**は到底一個人一私團體の力では如何ともすべからざる物である點から、各國の立法者に訴へて根本的に結婚の事にまで立ち入り止むなくば法律を以て此の如き結婚を禁止すると云ふ風にしなければならぬと學者政治家の意見が略一致するに至つた。

そこで從來之に關して既に成文的に法律を定めてある例及び之から其運動に着手し樣と云ふ例も既に多々ある。彼瑞典も之に關する一法律の制定を見んとする場合になつて居る。即ち凡て遺傳的病氣を有する者は結婚を禁じやうとするに對してストックホルム醫科大學は此法案の通過を熱心に希望して居る。尙北米加州では既に一法律を制定施行して居る。これは先天的な痴愚者とアルコール中毒症者は共に結婚を禁止される。次にニウインデヤには加州法律以上に尙ほ**▲癲癇病者**をも加へて居る。ニウヂャーシー州では癲癇病者は二人の醫師の完全な治療を證明した際にはこの嚴禁を解かれる事に成つて居る。ミシガン州では全治前にこの禁止を犯す者には五十年間の投獄を課せられる事になつて居る。インデアナ州及びカリフォルニヤ州の法律は命令を以て再犯者は必ず去勢する事になつて居る。その他再犯人ならずも痴呆者、殺人犯者は結婚前にやはり去勢する事になつて居る。ペンシルヴアニヤ及びオレゴン州にはこれと殆んど同樣の法案を可決したが、いまだ其法律を發布しない。ここに於て人道は要するに絕對的の物ではなく、社會共同の認定的な物である性質を有すと云はればならぬと一法律學者は論じた。（讀賣）

▲力翁の大決心

△全財産を公共團體に

米國の富豪にして世界の鐵王を以て聞えたるアンドリウ、カーネギー翁が歴代自國大統領たりし人々の未亡人中不幸に沈淪し居る者多きを憫し此等未亡人の爲め特に救濟會を設けて年々五萬圓宛を贈與するに決したる由既報せしが更に先月末紐育發の通信に依れば同翁は此頃其遺言狀に於て自家の全財産中僅々五千萬圓を留めて其餘は死後悉くカーネギー社團法人の手に委ぬべしと言明したり翁の全財産は實に十億圓に達し居るは最近の調査に依りて明かなれば法人の手に移さるるもの即ち九億五千萬圓となるべく自家に留むべき五千萬圓は近く控除整理さるべしといふ翁の然る決心を爲したる原因に就ては深く知る由なけれども傳ふる所にては曩に大統領未亡人救濟會を起して其認可を合衆國議會に提案したるに拘らず敢なく否拒されしを憤りでなりともいふ此通信にして果して眞ならば寔に富豪界空前の擧と稱すべし。（朝日）

（○社會の研究）

▲兇惡の犯罪と警察

△世界中で犯罪人が最も多い
△日本の警察制度は遲れてる

山本搜索係長の談

近頃人の膽を寒からしむる無慘なる犯行次で起れるに其犯人は一も擧らず人心恟々安き眠も貪れずと云ふ有樣なるが賴みに思ふ警察はと廿三日警視廳に山本搜索係長を訪ひ談此事に及びしに

▲奇術師ではない 其答に曰く國の文野は警察制度の完備せるや否やと謂はれる程にて警察は文明の進步に伴はざるべからざるに我國の現狀は之を歐米に比較すると十年も十五年も遲れて居る二百萬の人口に

刑事巡査は僅かに三百人其機密費用はと云へば一人一日五十錢強であつて之を歐米に比較すると其人員に於ては三分の一で之に用ゆる金錢に至つて到底は比較にならぬ殊に我國の如き多くの犯罪人ある國は世界中稀であらう緊急事件ありて綱曳き俥に乘るに一々長官の許可を要し更に急ぐ際に於いて之に要する設備の如きは毫も無い、當局に於ては世人の希望に副ふ事は欲して居るが世人は警察官に活動力を與へて奐れぬ世上では警察は犯罪あれば瞬間に捕縛する樣な奇術師を望むであらうが其れは中々一朝一夕のものでない、殊に近時の犯行に至つて少し異なつて來たのである

▲知難い近時の犯罪

近頃慘行を敢てせし犯人は何れも慣行生の犯人ではなくて素人の偶發的所行と思ふ、小石川區小日向の番頭殺し事件の如きも能々と思ふ、小石川區小日向の番頭殺し事件の如きも能々

每年節季に行はるゝ龍拔・泥棒と稱する手で一時は實力ある番頭の爲めに遣られ懸けたのを盛り返した仕事と思ふ、素人の強盜殺人犯は手の付け樣がない、犯罪の動機系統の見るべきなく平素視線を注いだ注意人物でもなく腕が利いて始めより大膽差を振り翳した、強盜でもなく近頃斯かる犯罪の增加したるは彼等の仕事も被害者の注意、家庭の關係、警察の監視の爲めに困難となつたのと新刑法上窃盜も強盜も其刑罪に於ては大差なきのも關係を持つと思ふ現に此間芝公園にて強盜で捕はれた等の如きは有名な窃盜犯で變裝變聲に長じ老探偵も舌を卷く程の技倆なりしに強盜に變じた程である

▲腕が欲しい

檢擧は世人の助けを得て成効する場合が多い、時の關係は重大なれば申告の早きは大なる便益である、近い話が小松次官斬事件の如きも警察官より知り進んで搜索を始めたるが如き次第で若し當時間もなく申告あらんか日は費やさゞりし事と確信する永久に亘る仕事は別として探偵術や機敏の所害に至つては歐米人は恐るゝに足らず我々をして大いに活動さすべく大なる鞭韃して貰ひたいのである、外國の如きは一犯人を追跡する爲め特別船を仕立てあるが如きは實に幾數事ではないか世人は檢擧に困難なる知的犯罪即ち大詐欺等の如き影響の多き大犯罪に就ては餘りに注意せざるが如く又檢擧しても毫も賞贊の聲を放つて奐れぬ、日本人は犯罪あればソイ〳〵騷いで困る、我々の活動は其少し靜まり懸つた處にある、我々は檢擧の確信があるが力が足らぬ實に腕が欲しい。（時事）

▲自殺者が增加した

△東京市の一箇年間

△勿驚千七百五十人

人口が增加して生活が複雜になりまた生存競爭が激烈になるに從つて自殺者が多くなり世が文明になるにつれて自殺の方法も樣々な事が出來て來る此程漸く此等の事に就いて調査せられたるを見ると左の如くである。

原因	既遂	未遂
精神錯亂の結果	一二一	六二
病苦に因りて	一二二	三四
生活の困難及び薄命	六九	五一
淫逸及び放蕩の結果	六	三
將來を苦慮して	一七	一〇
痴情及嫉妬の果てより	二三	三五
家庭不和を苦にして	二一	八
老衰して身の不自由により	一二四	一五六
商業の失敗を負債のため	二八	一八
罪の發覺を懼れて	八	一七
その他	一七四	一七
合計	七二四	四三三

自殺手段の種類は又た左の如くである

種類	既遂	未遂	種類	既遂	未遂
縊死	一八九	二九	入水	二五〇	二三〇
自刄	三四	三七	服毒	九一	七三
汽車	一三八	四四	電車	八	二
銃	一	一	其他	一二	一七
合計	七二四	四三三			

自殺の原因は前の統計に示すが如く精神錯亂の結果病苦にし及び生活の困難より等なるが此等の原因の本來は凡て年々人口增加し物價騰貴し所謂不景氣より來るもので年々增加する殊に生活難及び薄命を原因とせるもの杯は此四歲で年間に二倍も增加して居る次は自殺の手段であるが最も多いものは入水でそれより縊死汽車往生等であるが死に際しても尙ほ安逸を求むるは人情の趣く所であるが入水者の冬季に少くして夏季に多いと云ふ事は殊に此の現象を明かに示してゐる尙ほ一時は華嚴淺間の瀧や噴火口に飛込んで死ぬ樣な一種の衒氣に囚はれた自殺の致方をするものはあつたが近頃は殆んどない樣である。（中央）

（◦社會改良案）

▲片山式の宴會改良

醫學博士　片山國嘉氏談

◎如何に酒の害を說いて禁酒を唱道しても、酒に代ふる飲物がない以上は、それも行はれぬ。彼の禁酒論は

絶對に杯を排し、悉く之を破壊せよと言ふ、或は又金杯の御下賜を以て飲酒奬勵の意味に曲解する者もあるが思はざるの甚しきもの、杯に盛るに必ずしも酒には限らぬ。

◎酒は昔未開の時代に人々之を飲み始め、好い心持になる所から、害あるとも知らず社會に擴がつたもので人智が進んで其害の學術的に分つた今日では、杯だからとて酒を盛らればならぬ道理はない。俗にならぬ他の清涼飲料をこそ寧ろ盛るべきである。これ杯の改善である進歩である。

◎私は先年父を喪つたので其葬儀を營むべく故郷（遠州）に歸つた。古來の風習として葬儀が濟んだ後は村の連中を招んで酒宴を催さればならなかつた。が私は多年酒の害の恐るべきことを研究して知つて居るから如何に古來の習慣とは云ひながら、毒を人に進むることはどうしても忍びない。私の良心が許さない。そこで私は其事を皆の前で述べて斷然酒だけは出さず。其代りに酒代以上の金を村の學校に寄附した。

◎所が青年輩は私の意を能く了解して大滿足であつたが、老人株に飲酒癖ある二三の人々は之を物足らず思ひ、秘かに臺所に行つて茶碗酒を煽つたさうな。併し私が此例を開いてから、出産其他の場合などに村の衆から祝ひ物を贈られれば、返禮として酒宴を催さればならぬので、大に弱つて居た人々が私の例に倣つて酒代の代りに道普請をやつたりして一村の便利を圖ることに努め出した。此地では宴會改良が出來たのである。

◎私は又先頃倅に嫁を貰つたので其結婚披露會を或席で催した。例に依つて酒精性のものは出さない。シャンペンの代りには或清涼飲料を用ゐた飲酒癖に罹つて居る御方は多分御迷惑であつたらうが、小松原英太郎氏や山本達雄氏夫人の如きは、好い例を作つて吳れたと大層喜んで居られた。

◎惟ふに宴會改良はやらうと思へば案外容易く出來るのである。世間も餘程改良の機運に傾いて來て居る。殊に著しいのは此頃の學士連や陸海軍の少壯士官が酒を飲まなくなつた事である。唯[illegible]人物の中に、宴會の席上で泥醉し、醜態を演ずること猶未開人同樣なのが多い。

◎なに新式屠蘇と婚禮に用ゐた飲料の調合法を示せと それは何でもない兩方とも葡萄液さ。

▲輕便な喫茶會を擴めよ

農、法學博士　新渡戸稻造氏談

◎今日の日本流の宴會は、殆んど藝者と交際して行くやうなもので、御互同志の親睦はソチ除けといふ風でである。そこで私は今後の宴會を三段に分けて、最も叮嚀な本式の宴會は、之を西洋風のテーブルですることにしたいと思ふ。食ふ物は日本料理でも構はぬ。又藝者が給仕に出るのも、假りに可いとする。

◎但し藝者は給仕に出ても、從來のやうに客と前向ひにならず、恰も西洋料理のボーイのやうに、客の後から給仕させたい。すると自然御互同士の間に談話が交換されて、親睦の目的を達することが出來る。

◎今日藝者を一時に全廢することは無理であるから、假りに席に侍らすとして、藝者に顔を向けないで、背を向けて居れば、これが段々藝者を無くする一着ともなるのである。

◎それ程叮嚀でない宴會ならば、立食が可い。彼處に誰が居るから話しに行かうと、皿を持ちながら隨意に出掛けて話も出來る、一體飲んだり食つたりするのが宴會の目的ではない、御互に忙がしい人間が折々一堂に會して、種々話し合ふて情を溫むるのが宴會の目的である。其の間に腹が減るから物を食ふので、若し單に食ふ爲に行く人があるならば、抑も心得違の人である。立食でも大勢になると園遊會的に蕎麥、おでんなどを拵へてするも宜い。

◎第三は喫茶會である。本式の叮嚀な宴會や、大仕掛の園遊會などは、餘程の金滿家でなければ容易に出來ない。今日、日本料理で見苦しくないやうにするには一人前十五圓掛ければならぬ、洋食でもシャンペンと葡萄酒の二通りも附くものは一人前八圓は掛かる

◎學校の校長とか教授とかいふ者は、位は高いかも知れぬが俸給は役所の局長にも及ばぬ。大學の教授でも年俸二千圓はいゝ方だ、到底上流社會との交際は出來ない、人には招待されても、自分で人を招待することは出來ない、といつて毎度食ひ放しばかりもして居られぬから。自分の誕生日などには來て貰ひたいと思ふが、それも經濟上出來ない場合が多い。

◎そこで私は輕便な喫茶會を今後大に流行させたいと思ふ。ケチなやうだが、實際は人々行詰つて居る、是非簡便に交際の出來る必要がある。

◎私は北海道に居た時分から「誰でも來い」といふ會を設けて、二十錢位の會費を持參する者は何人も拒まず

皆一緒に鰻の丼を喰つて懇談した。今でも毎月私の宅で同郷會を開くが、會費五十錢で、之を主な御馳走費に當て、あとの茶とか菓子とかは私の方で出すことにして、面白く行はれて居る。

◎一體我邦では御馳走が餘り多過ぎる。借金してまでも人を招けば馳走せねばならぬと思うて居る。だから貧乏な上にも貧乏になるので、社交は御馳走ばかりで出來る者でない。酒がなければ親睦が出來ない、といふやうな社會は幼稚な社會で。

◎獨逸では近來ビールの飲用者が著しく減つた。殊に海軍士官の間に此傾向が著しい。これは獨逸皇帝の聖慮に基くもので、皇帝は曾つて獨逸學者として有名な米國のウーツド氏に向つて「海軍士官は、人民から絞り取つて造つた高價な軍艦を預かる者であるから酒を飲むやうな者には任かして置かれぬ」と話されたさうで、此事はウーツド氏が直接私に話たのであるから嘘ではあるまい。

◎タフト氏も鐵道青年會に向つて此意味の訓戒をされた。即ち鐵道從業員は多數の生命を預かつて居る者故、酒を飲む者には、此重大任務を委されぬといふのである。實際今後は遊蕩を仕事として居る者の外は、從來のやうに泥醉などして居ることは出來ない。夜會に夜を更せば翌日の仕事の妨げになる。(日々)



◎偉人の面影

家庭の人としての我兄吉田松陰

兒玉芳子

▲松陰の幼年時代　私共の父は杉百合之進と申しまして、次兄を民部といひ、次兄は寅次郎即ち松陰で、叔父に當ります吉田大助の家を繼いだで御座います。

私共の一家は父をはじめ、矢張これも叔父に當ります玉木文之進と申すのも、塾を開いて居りましたやうなことで、誰れも青表紙を手にしないものはありませず、殊に兄の養家の吉田家は山鹿流の軍學の家であつたので御座います。

松陰は私より二歳上の兄で御座いましたが、五つ六つの時分から手習ひや、書物を讀むのが好きで、他家の子供が大勢でいろ〳〵な遊びをしてゐても、振り向きもせずに、ジツト書物を讀んでゐるといふ風であつたさうで御座います。偶に遊び事らしいことを致しますのが、屋敷の庭で其頃土圖と申しましたが、鏝などで土をねつて、山をこしらへたり、河の形を造つたり、つまり土でいろ〳〵な圖を畫くと申したやうなことをして居つたといふことで御座います。母はいつでも、寅次郎は何處に一點小言のいひどころもない、實に手のかゝらぬ子だと申して喜んで居りました。

非常に親おもひで優しい、氣質で御座いましたから、父や母に心配をさせまい、氣を揉ませまいと、始終それを心がけて居たやうで御座います。着物などでも母が一枚こしらへて着せますと、何時までゝも母が着かへさせますまでは、默つて着て居ります。さうして其の構はぬ風と申しましたら、何時でも歩く時には、書物を澤山懷中へ入れますので、着物の一方が曲つて仕舞つて、背筋の縫目が肩のところへ來て居るので御座います。叔母などが見かねまして、餘り醜いから書物は手で提げたら宜からうにと申しますと、手を明けておかぬと自由がきかぬなどゝ申しては、相變らず懷中をふくらせて、肩を曲げて歩いて居りました。

▲物に動ぜぬ氣象　極く幼さい時分から落ついた人でした。藩には上覽のお講義と申して、殿樣の御前に出て講義を致す時があるので御座いますが、兄は十歳位の時から、毎年それに出て居りました。所が確か十二三歳の頃で御座いましたらう。殿樣から七書のお好みが出ましたさうで御座います。七書と申せば中々册數も多いことで御座いますから、父や叔父なども心配して、せめて何處を出すといふことを仰せ下さつたならば、下稽古もしておいてやらうものを、あれだけの書物の中から何處が出るか分らぬのだから首尾よくお講義が出來れば宜いが、といろ〳〵に氣を揉みますのを兄は何構ひますものか、何處でも仰せの處をやりませうと、一向平氣で居りました。其の翌日御前に出まして、開かれました處をスラ〳〵と、立派にお講義を致しましたとかで、殿樣からひどくお賞めに預かり、御褒美を戴いて歸つたことも御座います。

▲他人の爲めに盡す　また兄は何事にでも自分を後にして、他人の爲めに盡すといふたちの人で御座いました。或時吉田の門人で、そして吉田家の後見役を致して居りました、林といふ家に泊りに參りましたが、折惡しく丁度その晩、林家から火事が出ました。火事と聞くと、兄は直ぐに跳れ起きて、枕元に置いてあつた自分の大切なものは打すてゝ、他の室にかけて行き、林家の家財をドンドン運び出してやりました。後にその事が分りまして、先方では痛く氣の毒がられましたが、兄はあなたの方では大事な家を燒れるのですから、一つでも餘計にものを出して上げたいと思ふのは人情でせう、そのために自分の少しばかりのものが燒けたと云つても不思議なことはありませんと云つて居りました。

▲美はしい友情　兄弟は澤山御座いますが、下はずつと年が隔つて居りまして、長兄と松陰と私とが二年違ひづゝで御座ましたから、いつも三人で何か致しました。

長兄と松陰に仲がよう御座いまして、叔父の玉木の所へも兩人で勉強に參りました。夕方から兩人連れで參りまして　、叔父の門弟に教授をして遣り、自分達も稽古を濟ませて、また兩人で朝の八時頃に歸つて參ります。御飯をいたゞきますのでも、兩人が首を寄せまして、それは／＼親しいもので御座いました。

秋など屋敷續きの山に松茸が澤山出ますので、今日は茸狩をしやうかなどゝ申しまして、私と三人でよく其の山に參つて面白く遊んだことも御座います。長崎に參つたり、いろ／＼國事に奔走致して居ります時でも、三人で樂しく遊んだ事を、よく夢に見て、其の時分を懷かしく思ふなどゝ手紙を私へ呉れました。思ひ出すほど優しい人でありました。

私は早く緣づきましたし、今の姨さん達のやうに何處へ嫁入つても、何時でも構はず生家に往き來をすると申すやうな、そんな事は中々出來も致しませず、また自身でも好みませんから、生家に參るやうなことは滅多に御座いませんので、兄は大層私を懷かしがつて呉れまして、時々序には、今度は何時來るか、來られる時には前以て知らせてくれ、待つて居るからなどゝ申して參りました。

お正月などの遊びでも、無意味な事をしないで、いろはたとへするとか、歌かるたでも取つて、一字でも一句では覺えて益するやうにせよなどゝ、よく敎へて呉れました。

▲最後の江戸行き　日は今一寸忘れましたが、兄が江戸へ護送されたのは、確か安政六年の五月で御座いました。御承知の通りの勤王家で御座いますから、よもや殺されやうなどゝは、私共はじめ思ひも致しませんでしたが、それと普通の旅ではないのですから、本當に名殘りが惜まれてなりませんでした。

父は申すまでもなく、母も氣丈な人でしたから、心には定めし不安もあつたので御座いませうが涙一滴こぼしもせず、私共に致しましても、たとへ如何なる事があるとも、斯る場合に涙をこぼすと申すことは、武士の家に生れた身として此上もない恥かしい女々しい事と考て居りましたから、胸は裂けるほどに思ひましても、誰れも泣きは致しませんでした。

丁度出立の前夜で御座いました。母が兄に向ひまして、「今江戸に行つても、どうかモウ一度無事な顏を見せて呉れよ」と申しますと、兄は莞爾と微笑みまして「お母さん、見せませうとも、必らず息災な顏をお見せ申しますから、安心してお待ち下さい」と事もなげに答へて居りました。けれども自分では再び生きて歸るとは思はなかつたものと見えて、チヤンと覺悟をしてゐたのであります。

▲生別死別を兼ぬ　それは、萩のずつと端れに松の木が一本御座います。昔は江戸へ行くといふことは、今の外國へ行くよりもモツト大層なことに考へまして、家族は水杯をして別れたと申す位で御座いますから、誰れでも此の松の木まで參りますと、アヽモウ自分の國のはづれである、これからは他國の土を踏むのだと思つて、ホロリと致すさうで、それで此の松を昔から涙松と稱へて居ります。兄も其所まで參りますと

かへらじと思ひ定めし旅なれば
　一しほぬるゝ涙松かな

と詠んだといふのでも分ります。

これは後に門弟から聞きましたので御座います。また門弟達にたとへ松陰の肉體は死んで仕舞とも、魂魄は此の世に留つて、お前達の身に添ふて、必ず私の此の精神を貫くと、申し聞かせて居つたと申すことで御座います。

▲不思議の夢　兄は安政六年の十月二十七日に小塚原の露と消えたので御座いまして、年は丁度三十歳で御座いました。

これも後に首を斬られたといふ便りを得まして、思ひ合したので御座いますが、十月の二十日に斬罪に處するといふ沙汰が御座いましたさうで、丁度二十六日の晩、即ち斬られる前夜のことで御座います。國では長兄が病氣を致して居りましたので、母が枕邊で看護を致して居りまして、眠るともなく、うつ／＼と致しましたところ、兄の松陰が、前年長崎から歸つて參りました時のやうな、それは／＼壯健な樣子で、さうして如何にも晴れやかな顔をして、母の前に座つたさうで御座います。母は喜んで「オヽ」と申したはづみに眼が覺めますと、兄の姿はなく、全く夢であつたことが分りました。

自分では不思議であるが、たゞ夢と思ひますから、翌日の夕方になるまで默つて居たさうで御座いますが夕方に皆なが寄り合ひましたから、思ひ出して話をすると、父も同じ時刻に床に入つて居りましたが、松陰が泰然自若として、少しも取り亂した樣もなく、實に見事にスパリと首を刎ねられた所を夢に見たと申すので御座いました。父母は勿論のこと、皆不思議なこともあるものだと、話し合つて居りましたが、その後いよ／＼悲しい報せを聞いたときに、兄の日頃の孝心から、別れます時に、母が今一度無事な顔を見せてくれと申し、必ずお見せ申しますと云ひました、其の言葉を果す爲めに、母にはさうした達者な顔を見せ、父には卑怯の樣もせず斯くして立派に斬られました、と其の樣子を見せて、兩親を安心させたものであらうと打しめつて語り合ひました。

親をおもふ心にまさる親ごゝろ
今日のおとづれ何ときくらん

といふ辭世を詠みましたのも、此夜であらうと思はれます。

肉身の情としては、兄が幕府の調べのあつた時に、尋常の答だけでおきましたならば、よし罪になるに致しても、まづ遠島位であらうとは皆樣もお考へになつて居られたのださうで御座いますのに、あゝいふ氣質の人ですから、何も彼も怯めず臆せず、考へて居る事をきつぱり申し立てました爲めに、終に殺されて仕舞ひました。人間の壽命のことですから、何とも申されは致しませんが、私でさへ斯うして今日も壯健で居られので御座いますから、兄も殺されたりなどされなければ、或は今も生きて居たかも知れないになどゝ、折ふしは考へることも御座います。併し云ふべきことを、きつぱり申した處が、松陰の松陰たる處であらうと存じます。(婦人の友)

◦婦人の鑑・

▲お爨どんを爲乍ら女子大學卒業

少年粲々主　奥宮加壽子

▲逆境に在つて志を立つ：私は土佐の潮江村に生れましたが、兩親に早く死別れましたから充分の教育を受ける事が出來ませんでした。それに家が豐でないものですから、充分の學資を出して貰つて勉強すると言ふことは、到底出來ませぬので、小學校を卒業して暫く高等女學校に入つて居りましたが、學資が續かない爲め、官費の勉強の出來ます女子師範の方へ移りまして、卒業致しましてからは三年間村の小學校に奉職して居りました。元來私は子供の時分から儒教的の教育を受けましたので、總ての者が皆消極的となる傾があるので御座いますが、その中種々の事情が御座いまして、非常な逆境に立ちましたのが動機となりまして、自分の樣な者でも、今少し學問をしたならば何か世の爲に成る事が出來ない事はなからうと言ふ氣が附きました。さあ然う思ふと急に學問がしたくて、草深い田舎に居るのが厭で／＼一日も早く東京へ出で學問がし度いと思ひまして種々と東京へ出る方法を考へましたが、今申しました通り何よりも先に立つ學資の出所が無いのですから、これには少なからず苦心を致しました。所が恰度鎌倉の小學校に女教師が要ると言ふ事を友達から知らして呉れましたので、其方へ話を致しますと都合よく話が纏りましたから、直ぐ東京へは行けずとも、東京に近い鎌倉に居さへすれば東京へ行ける機會があるのであらうと存じまして早速鎌倉へ參りました。

鎌倉まで參つて見ますと、總てが東京式で御座います故、もう東京へ來た樣な心持が致しまして嬉しう御座いました。それは明治二十九年の五月で御座いましたが、此所に二年ばかり居りまして、横須賀に兄が居りますので横須賀の女學校へ轉任致しました。此所にも一年程居りまして三十二年に東京へ出ましたが、職業がなければ生活が出來ぬ故小學校へ奉職致しました。然し東京へ參りましたのは學問をするのが目的で御座いますから、小學校に奉職して自分の學問をする

事の出來ないのが殘念で堪りませぬから、何とかして自分の學問をする方法は無いかと、日夜其事ばかり考へて居りますと、三十四年の春に女子大學が創立されましたので、是非此の學校へ入つて勉强し度いと存じまして、種々心配致しましたが、前にも申しました通り、學資の出る道が無いものですから、仕方なしに一旦斷念致しました。それは假令他から輕蔑されやうが何と言はれうが關はずに、唯初一念の目的を果さうと決心を致したのです。

▲教へた生徒と同窓になる　その時私は二十八歳で御座いますから、幾等晩學だと申しましても、十も年が若い人達と共に再び學生々活に移るのは隨分きまりの惡い話ですが、そんな事などは學問が仕度い一心で氣にも留めなかつたので、女子大學の方へ參りまして自分の決心を話しましたら學校も開いたばかりであるから、貸費生の制度も未だ出來て居ない故、寄宿舍の校婢にでもなつて勉强しては如何だとの御話でしたから校婢でも何でも致します故入學を許して下さいと御頼び致しまして、漸くの思ひで大學部家政科の一年へ入學致しました。私が家政科へ入りますと同時に、愛日小學校で私が教へて居りました生徒の方で、附屬の高等女學校の方へ御入學なさいました方が大分ありました。教師と生徒が同じ學校の生徒になるなんて隨分奇觀です。同じ學校に居て同じ生徒から先生々々と言はれるのは何と無うきまりの惡いものです。然れども多年の志望が遂せられたので、嬉しの餘りそんな事は問題として居りませんでした。

▲三十人の寄宿生の校婢となる　私の校婢となりました寄宿舍は只今の第二寮で、其の時は此の寮に三十人の寄宿生がありました。その時分は開校早々の事で、寄宿舍の規則も未だ充分調ふて居りませんでしから、當番なども出來てゐず、三十人の食事の仕度から寮の掃除まで一人でせねばならぬのです。斯うして私一人の校婢が一つの寮を受け持つて居るのです故、この仕事だけでも却々行りきれたものでありませぬ。それを普通の生徒と同じ樣に教場へ出て勉强するのですから、其の辛さと言ふものは涙が出る位でした。

其仕事はと申しますと毎朝四時に起きまして提燈を腰に括りつけて水を汲みます。只今なら水道もあり瓦斯もありますから便利ですけれど、其の時分は水も瓦斯もない時代ですから、三十人の食事の仕度には水を汲むだけでも大抵ではありませぬ。水を汲むでから御飯を焚きます、それから寮中の板戸を開けて掃除をして、三十人の寄宿生に朝の御飯を食べさします。それが濟みますと直ぐ御晝の仕度をして置くのです、それは私が皆と共に教場へ出ますから、朝の中に御晝の仕度をして置きませぬと寄宿生に御晝の御飯を食べさすことが出來ないからです。斯うして朝教場へ出るまでに朝の御飯御晝の御飯と二度の仕度をするのですから隨分骨が折れます。それが濟むと直ぐ教場へ出られるかと申しますと未だもう一つ仕事があるのです。それは穢い御話ですが、大便所と小便所との掃除をするのです。これだけは否だと思ひましたが、校婢となつた以上は否だと言ふてせぬ譯に參りませぬから、辛いと思ひながら　致しました。

▲勉强の出來ないのが勉强　漸く朝の役目が濟みますと皆と共に教場へ出るのです、午前の授業が濟みまして皆と共に寮へ歸りましては直ぐに寄宿生に御飯を食べさす譯に參りませぬから、お晝前の授業時間は三十分程早くに教場を出て、寮へ歸つて御晝の御膳ごしらへをして寄宿生の歸るのを待つて居るのです。そこへ寄宿生が歸つて參りますと、御晝の御飯を食べさしまして、その後じまひをして教場へ出ます。授業が濟みまして寮へ歸りますと直ぐ夕飯の仕度にかゝらねばなりませぬ夕飯を了ひましてから僅少の時間復習と下調をするのですが、校婢と言ふ役目があるのですから、種々用事がありまして、思ふ樣に勉强が出來ませぬのには困りましたが、然し學問と言ふものは書物を讀むばかりが能でない、斯うして辛い思ひして働いて居るのも一ツの學問で、將來は何かの役に立つだらうから、思ふ樣に勉强の出來ないのがそれが一ツの勉强だと思ひ返しまして、勉强の出來ないのを不平とも辛いとも思はず、唯もう一生懸命にあらん限りの精力を出して毎夕働いて居りました。

▲遂に神經衰弱に罹る　然し人間の精力と言ふものには限りのあるものと見えまして、唯學問がしいたい一心から、無理に身體を使ひましたので、一年級を終つて二年級になりました時には、遂々神經衰弱に罹りまして、何としても働くことが出來なくなりました。學問はしたし働くことは出來ず、殆ご進退谷まりましたが、幸に兄弟等が心配してくれまして、暫く學資を送つてくれましたので、一時校婢を止めて普通の生徒として學校へ出て居りましたが、その學資も長

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

くは續きませんでしたから、この上は如何したものかと心配して居りましたから、この學校の近くに御屋敷の御座ります岡部子爵家で家庭教師が要ると言ふことで、私に來よとの御話でございましたから、私も病氣で校婢の働きは出來ず、さりとて學資も續かず誠に困つて居た時でしたから願ふてもないよい口です故、早速岡部家へ參ることに致しました。子爵家では其の時十歳と八歳と七歳のお孃樣と五歳の御令息が御座りまして、私はこの四人の御子樣達の御世話を致すのですから、なか〳〵責任の重い役目で又隨分骨の折れる仕事です。斯う言ふ大切な職務を私に任して下さつたのですから、全力を擧げて盡さればならぬのですが、一方には學校へも通はねばならず、一つの身體を二つに使用するので、その忙しさと申すものは校婢時代より一層忙しうございましたが身體の勞働は幾許か樂でございましたので、子爵家から毎日學校へ通はして戴きまして、漸く三十七年の三月に卒業が出來ました。

▲三千圓の寄附を得て少年寮を起す 女子大學が卒業出來ましたので、多年の志望の端は遂げたのでございますが、さてこれから何なりと世の中の爲めになる事が致し度いと存じまして、種々考へて見ましたが、何を申しましても女のことでございますね、それに女子大學を卒業致しましたとは申し乍ら今申しました樣な苦學して、卒業致したのですから、普通に專心學問をなさつた方の樣に充分の學問は出來て居りませぬ。それに資本と言てなし、何を致さう樣もございませんでしたが、女一人世の中へ出て働くより、立派な男を幾人も世の中へ出した方が世の爲めになる事と存まして、私は獨身で子もございませぬ故、他樣の御子樣を預つて立派の人物に仕立てたいと云ふ考から、學校を卒業致しますと直ぐ少年寮と申すものを起しました。これは近來學生の墮落と言ふ聲は喧しうございますが、少しも之が救濟の道が開けて居りませぬから、幾許か斯う言ふ缺陷を補ひたいと存じての事です。最初は永樂病院の前に二室ばかりの家を借りまして此所に初めて少年寮と申すものを起しましたが、その後、伊太利の公使館の書記官篠野音次郎樣の御夫人や、岡部子爵御夫人等の御助力を得ましらて百名ばかりの御有志から三千圓の御寄附を戴きましたから、其御金でこの雜司ケ谷に現在の建物を建てまして目下三十名の少年を御預り致して居ります。寮生の方が、私を精神上の母だと仰りまして、皆母さん〳〵と呼むでくださいますので、今では寮生の御世話を致すのが何より樂しみで、女子大學時代の苦しみなどは、昔語りの種に致して居ります。(大正婦人)

○子供の教育

▲一人子の研究

△兩親の愛を節約せよ

米國コロンビヤ大學の神經學の泰斗ブリル氏が過去數年間に四百の「一人子」の心理作用を專心解剖した結果は氏をして實に一人子は現在の社會經濟組織に對して病的產物であると絕叫せしめ且神經病者の殆ど全體が驕奢を以て生命とし己が安逸の爲に子女の生產を辭む底の富者の階級にある事を斷言せしめて近頃大いに世人の注意を惹起した事がある氏の言明は單に普通の觀察に依るのではなく實際氏自ら診察して研究した處に基くのである

▲遺傳と否とに 係はらず成年に達した「一人子」は皆著るしい共通の癖を有づてゐる即ち生活の戰鬪場裏に於て最も弱卒である、子をして玆に至らしむる罪は丌も誰にするのであらうか、子は愛深い母の腕を寸時も離れずに育くまれ遂に母の子となり終る其果は獨立心と自信力とを缺いて其子の中に潛む實質を發揮する機會を與へない畢竟するに罪は母親に歸するのである

▲家庭にあつて 年長者との間にのみ交はる「一人子」は一般に早熟であつて同年配者とは決して相容れない强ひて交はるには非常の努力と困難と苦痛を感ずる、嘗て十九歲の靑年が其性質は社交的でありながら一人の友をも持たず學力等から到底合はない者と斥けられて彼は年長者の中にのみ立交つた又七歲の兒童が普通の兒童の喜ぶ玩具も書物も其心を樂ますに足らず唯々斬新な刺戟物を追求め、得られない時には不平遣る方ない態が見えると其母なる人が語つたといふ例があると

▲兩親の愛を身一つ に集めし必要の場合にも罰せられず我の通らない無理も通せる間には其心に動かす可らざる自我の念が固く根ざす、理由なき賞讚の辭を身に浴びて傲慢となり偏見となり極端の自負は嫉妬となり猜疑となり他人の幸福を阻ひ天晴れ暴君となり終るのは自然の順序である、嘗て去る親睦社交の會の席上で其親友が自分よりも他の注目を多く得たとて

淺猿しくも自殺を企てた「一人娘」があつたとの事である、細君に調査して更に見出した事實は百分の三十八は全く精神に異狀を呈し、十八は理性亡失ともいふ精神病者と變じ、餘は皆藥餌も及ばぬ神經患者となつた

▲彼のロック氏　の有名なる人類理解論に兒童の心は白板にも喩ふべく凡ての智識は經驗に俟つとある、實に心理的解剖に因つてロックの言の謬たぬ事を知り且兩親の子に及ぼす力を考究して各自の心には幼時兩親に由つて與へられたる智的印象が何物を以てしても抹消し得ぬ鑄型となつて存して居る事が明かである、斯くて父と母との無形の尊係は男女各の將來の價値を作る基となるのである

▲猶一層研究の歩　を進めて更に左の事實が現れる、并は子が其兩親を平等に愛さず何れかに親疎の別が起る事である、男兒の最初に愛する女性は其母であり女兒は其父である、男兒は母を崇拜して母が既に其夫から失つた詩的の愛を其母に傾注して母の心の缺陷を補ひ、母は亦其兒を情人と呼んで男子に對する己が理想を其兒に實現さする事を望み且努める女兒は亦父に對して然りである

▲然れど兩親の此美しい　影響は次第に人をして愛する愛と戀り初める時に子の知覺から消ゆるともなしに薄らぎ行くかくて以來母は男兒の胸には世界最美最愛の女性ではなくなる、但し心の奧深く鎖るゝのみで全く取除かれるのではない、健全な人の心理を分解して不知不識の間に雜然として兩親の威力の働くのを以て見ても事實である

▲發達の經路　を誤つて不健全な者となり了つた一人子の例は歷史の中に多く見る所、又幸ひに毀はれずに了つた人もある兩者の適例としては羅馬皇帝ネロと孔夫子である殘忍酷薄を極めた前者は傷ましくも毀はれた人で後者は豐かに圓滿に育てられた人である、茲に於てか一人子は宜しく早くより他の兒童と交はらしめて「世界に己れ一人」ならぬを知らしめよと言ふに然る然して此よりも猶主要なる事は一人子をして兩親の愛に飽かしめぬ心懸けである（朝日）

▲子供に風邪を引かせる母親

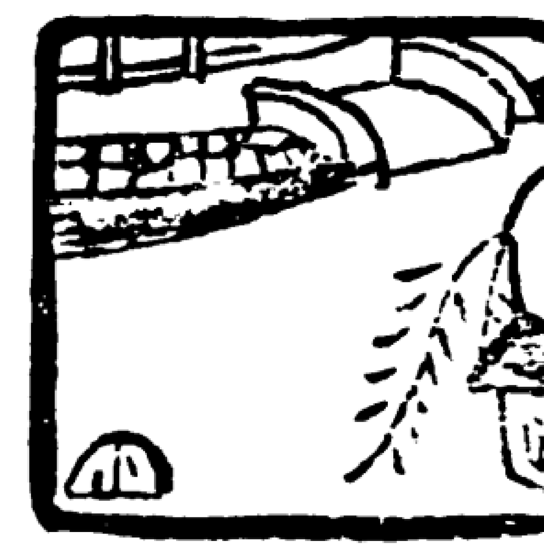
醫學博士　瀨川昌耆

▲厚着は風邪の原因　世間の親達は子供に風邪を引かせまいと澤山に着物を着せたがりますが、着物を澤山に着せたからと云つて風邪の豫防になる物でなく、却つて感冒に罹り易いのであります。それから又その澤山の着物を急に脫いだ時には、俄に身體が冷えますから、何うしても風邪の原因となり易いやうです。と云つても、寒い時には相當に厚着をさせなければ不可ません、時々背中や腋の下に手をやつて見て、若し少しでも汗をかいて居るやうであつたら、着物を少し減らさなければ不可ません。そして朝夕氣候の變目の時には、晝間よりも多く着せるやうにし、日中は成丈け少くしておく方が宜しい。晝は暖くもあるし、又子供はさかんに運動をしますから、少い程良いのであります。又極く子供が匍ふ位になりましたら、着物をづつと短くして、自由に運動の出來るやうにしてやるが宜しい。そして一體に着物は成丈け少くして、足が冷たければ足袋を穿かせるやうにすれば可いのであります。

凡て感冒は身體の一部が冷えて全身の溫度の調和が破れた時に起きるので、却つて全身が冷えたのは風邪の原因となりません。ですから、手、足、襟等は相當に包んで置かなければなりませんが。餘り包み過ぎると、急に冷えた場合に風を引きますから、平素其等の部分は丈夫にして置く事が必要であります。

▲子供を褞袍て背負ふのは禁物　又日本の風習として子供を背負つて其の上に、どてらをかけて歩きますが、負ふ者の溫度と子供の溫度と着物やどてらの溫度で、中に入つて居る子供はまるで茹つたやうになつて、下した時には湯氣のたつて居る事があります。そしてそんな時小便をさせる爲めに急に下して風に當てると、直ぐ風を引いて了ひます。これは最も氣を附けなければならない事であります。又朝早く夕方には、成るたけ子供を外に伴れて出さないやうにしなければいけません。朝は太陽が昇つて空氣が暖まつた後ならばよろしいが、夜はなるたけ早く寢せて了ふ方が宜しい。此等は皆消極的の衛生でありますが、尙積極的に風を引かぬせう、病に罹らぬやうに身體を丈夫にする事が最も必要であります。

その方法としては一週に三回は是非湯に入るやうにしなければ不可ません。よそしてその湯は餘り熱くない方が宜しい。三四歲位からの子供は冷水摩擦を行ふやうにすると宜しいが、然しそれは冬になつて俄にやり出したのでは駄目で、矢張り夏から行なければ不可ません。（大正婦人）



矢島先生を訪ふ

婦人記者

記者は一日麹町の女子學院に矢島先生を御尋ね致しました。先生の事は今更ら此處で申上げる必要もありますまい。兎に角明治の初代から、今日迄我國の女子教育のため、又社會矯風のために御盡し下さいました功績は、實に大なるものであります。而して今も尚、否今後も幾久しく社會の爲め國家の爲めに御盡力なされやうとなさる其の意氣の盛んなる、私共若い者の實に慚愧に堪へぬ所でございます。今左に先生が八十の高壽に達し給へるを祝して、談話の一二を御紹介申しませう。

◎何時 若い女學生の氣持

人は誰でも飜へつて今迄自分のなし來つた事抔を思ひ浮べて見ますると、得意と思ふ事は至つて少なくて、他人に對し自分の事業の上、或は社會に向つても、今少し盡すべきであつた、あゝもせねばならなかつた、と思ふ悔悟の事實が多いもので御座います。そしてあゝ自分はほんとに腑甲斐ない者だ、舊友であつた某子さんなどは、今あんなに幸福で御出になる、自分は不運な者だ、智慧が足りない、どうしたらいゝだらう、などゝ煩悶を初めて悲觀するのみならず、遂には人の境遇を羨しく思ひ、他人を恨み世も呪ふやうなひがんだ根性に陷り易いので御座います。

私なんどはもう八十歳にもなりますけれども、若い學生と同樣の心持で、どうか學びたい進みたいと念じて居るので御座いますが、私共を今時の新教育を受けた若い方に比べたならば、高尚な學問などは少しも存じませんので、誠にお恥しい次第で御在ます。然しそれだと申して自分のとつた年ばかり數へ立てゝ、悔んだとて仕方がないので御座ます故、見るもの聞くもの皆何等か自分の師表であると思つて學び度い〳〵とのみ思つて居りますので、心は常に愉快で、恰も若い學生のやうに快活な心を持つて日々過して行くので御座ます。過去を以て將來を戒めるのは勿論よい事でありますが、徒らに重ねた年を數へ立てゝ、愚痴を零したとて返らぬことゝ思つて、常に進歩向上の心掛を以て、昨日よりも明日、去年より今年は幾分でも進んだ人となり行くことに努めて居るので御座ます。

◎嫁も姑も努力せよ

又私は今迄學校を卒業して家庭に入つた方々の噂を耳に致しますが、今時の教育を受けた女は、氣位ばかり高くても實際の役に立たぬ、机上の料理や經濟は上手でも、扨實地に當らせて見ると、御飯一つ滿足に炊き得ない。と云ふ批評で御座ます。姑となつて多年の間實地の經驗を積まれた方から御覽になれば、之は確かに一部の眞理に相違はないと、私も思ふのですが、併し失禮ながら、其姑の方々がお若い時代は、女子教育などゝいふ樣な聲は夢にも聞かず、只簡單な讀書算盤位を教へられ、裁縫とか機織は女子に大切な教へとなつて居た位なので、明治の今日とは社會の事情、世の風潮がすつかり變つて居たので御座ます故、只今の學校教育を受けた者とは、自然に思想感

情の上に多少の相違のあるのは免れない事實だらうと思ひます。そこで近來は此の弊害を防ぐ爲めに歐米風の姑嫁別居主義など丶申す事も耳に致しますが、我國は二千餘年の昔からの習慣となつて今日に及んだ家族制度をさう急に打壊してしまうといふ事も、よく考へねばならぬ問題であります。それ故私は差當り今日の家庭で平和を保つて行くのには、嫁たる人卽ち所謂女學生上りの若夫人はどこどこまでも忍耐心を强うし、またどこどこまでも從順に眞心を以て仕へる心掛が大切であると同時に、姑たる老人も亦努めて舊を脫して新に就く樣に致し、寛大なる心を持つて、家風に合ふやうに教へ導き、以て昔のよい習慣と今日の學理とを實際に調和させるやうにして、つまりは時勢に後れない老人となることに努められ度いと思ひます。而して時々教會や寺院などに出席して、若い方逹と一所に神樣を讃美禮拜し、よいお說教などを聞いて居りますと、忌はしい新舊思想の衝突の爲めに、家庭の平和を破るといふやうな事は無いだらうと思ひます。

◎社會風紀の改良と婦人の自覺

社會の風紀を改善して行きますには、婦人の自覺といふ事が最も大切なので御座まして、御存じでも御在ませうが、婦人矯風會の方からして毎年議會へ提出して居る問題なんどでも、初めの内は其の同志を募るのにさへ苦心を致したので御座ました。其の一例を申して見ますると其御家へ伺がつて、嚙んで含める樣に奥樣にお話をしてやつと分つて、左樣で御在ますか、誠に結構な事で御在ます、私も是非其の連名中の一人になりませうと承諾して記名捺印して下さる。かういふ風で、一日に一人か二人の同志を得るのさへ、なか〳〵容易な仕事ではなかつたのでしたが、やれ〳〵と宅へ歸つて來ると直ぐ後からお使を寄越して、先刻は贊成して記名捺印致しましたが、お歸りの後よく〳〵考へて見ますと、主人の手前餘りに女として差出がましく思はれるやうで御座ます故、御主義には贊成致しますが、どうか連名は御取消下さるやうに願ひ度いといふ口上なので御座ます。こんな事も幾度あつたか知れませんので、いつも私はア、今少し自覺して、婦人自ら起つの覺悟がなくてはいけないと思つて居りましたが、此頃では段々と皆樣の御考へが進んで、眞面目に事を判斷し、進んで此事業に盡される方が多くなりましたのは、たしかに婦人が自分の天職を自覺して來られた効であると思つて、私は感謝して居るので御座ます。

つまり申さば、何事によらず謙遜な心を以て物事を考へ、其の判斷を過らずして、起つ可きに立ち、なす可きを爲すといふ事は大切なことであつて、口に云ひ易く、行ひ難い事で御座ますけれども、努めて怠らなかつたならば、何時かは其目的を逹する事が出來るであらうと確信して居る次第で御座ます。

記者は慈愛なる先生の溫容に接して、かゝる教訓を與へられました。其高き人格に接して、云ひ知らぬ感化を與へられたのであります。そして或る大人へ御紹介の勞を頂き度いと御願ひ申上げましたところ、御快諾下さつて眼鏡もかけ遊ばさないで、スラ〳〵と紹介狀を認められましたが、其れに「友人何々子御紹介云々」と記されてありました。まア何と御謙遜な御心で御座いませう。私如き者に對して迄、友人と御記しになつた先生の襟度の寛大なのには、實に驚き且つ感嘆せずには居られませんでした。

刑法及民法改正の請願

日本基督教婦人矯風會より貴衆兩院議院に提出せるもの丶全文。

謹て書を貴衆兩院に呈し刑法及び民法改正の件を請願す願はくは我らの衷情を察し其請を納れ萬民の福祉を全ふせられん事を

凡て人世にあるや貧富貴賤を問はず等しく自由の權を賦與せらる丶ものにして未だ男女の故を以て輕重ある可らざる也人智未だ開けず人權の何物たるを知らざる時代に於ては婦女子を玩弄物視したる如き奇怪なる現象なきに非ずと雖も文運人智の開發して私權公權の別自ら明かなる二十世紀の今日に於ては既に婦女子と雖も人權を貴重し天賦の幸福を全ふするを得るに至れり是れ洵に宇内の大勢にして決して止む可らざるなり今や我國の制度文物悉く泰西に則る獨り刑法及民法を制定するに於て舊套を脫する能はざるは吾儕の遺憾に堪へざる處なり今我國現行の刑法を見るに其第百八十三條の規定に曰く

第一　有夫の婦姦通したる時は二年以下の懲役に處し其相姦したるもの亦同し

前項の罪は本夫の告訴を待て之を論す但本夫姦通を縱容したる時は告訴の效なし

斯の如く妻の姦通を處罰するも夫の姦通は不問に附せり故に之を改正し有妻の男子の姦通も亦有夫の婦の姦通に等しく處罰する事にすべし

第二　民法中或部類に一夫一婦の精神に基き左の條項又は其意味を追加すへし

一　姦通とは有妻の男子他の有夫若くは無夫の女子に通し有夫の女子他の有妻の男子に通するを云ふ

一　有妻の男子にして妾を蓄へ妓に接するは姦通なり

一　姦通の場合には其配偶者の一方は離婚を請求する事を得又相當の償金を請求するを得

其理由左の如し

一　現行刑法は有夫の女他の男子と姦通するを罰するも有妻の男子他の女子と姦通するも之を不問に措けり是れ五千萬の半を占むる婦女の存在を看過したるものにして婦人を玩弄物視したる往時の遺物を繼承したるものなり

一　君子の道は端を夫婦に發す一夫一婦の大倫は社會の由て成る根本なり然かるに今日の實際を見るに法律上及ひ戶籍面にては一男一女を娶となすも事實上有妻の男子にして副妻或は妾を蓄へ一夫多妻の蠻風は平然として白晝に行はれ居れり然るに現行の民法刑法は此破倫を看過しつ丶あり

一　時と所とによりて些少の相違なきにあらざるも男女の數は殆と相均しく殊に婚期の男女は數に於て相等しきものなり故に一男數人の女子を妻妾とするは其平均を破るものにして現行の刑法民法は此點を看過せるものなり

一　一男一女天理に順ひ愛情の一致する所に由り生涯相扶け相保たんと欲して婚姻する者なるに男子たるもの家に妻あり猶妾を蓄へ妓に接する如きは夫婦の契約を破り婚姻の目的を害するものにして夫妻の衝突も之より起り妻妾の衝突も之に始まり家庭の和樂を破り子女の健全なる敎育を妨け引いては國家の元氣を腐らすものなり現今の刑法民法は之を看過せり

一　諺に曰く義は國を高くし罪は民を辱かしむと男女の淫亂れ蓄妾接妓の亂俗公然と行はる丶は實に國家の耻辱なり而して其之を取締る可き法律も女子の節操を要求して男子に要めず爲に外人をして日本の刑法民法は男子の醜行を公認し婦女子を人間視せすと誤解せしむるあらば決して國威を發揚する所以にあらず今や列國環視の間にある我國の法典の中斯る遺漏あるは得策にあらず

願はくば茲に陳述請願する所を採納せられ速かに拯救の道を立て給はん事を我ら懇願の至に堪へす

次には在外賣淫婦取締法制定に關する請願書を掲げます

在外國賣淫婦取締法制定に關する請願

謹んで請願仕り候

一在外國賣淫婦取締を嚴にし之に對する適宜の法律を制定ありたき事

右理由

今や日本の汚辱なる密行賣淫婦は太平洋沿岸にあまねく韓國支那滿洲香港より新嘉坡南洋諸州果ては北米の諸州に及び候狀態言ふに忍ひさるものありと承り及候中には無智曖昧なるもの丶唯利是貪るより誘拐者の黠策に陷り前非を悔いて歸國せんと欲するも遂に能はざるもの往々之ありと申候實に彼らにとりては愍然の次第國にとりては之に過ぎたる不面目なしと存候

然るに現行法令は取締の法其宜しきを得たりとは申難く候旅行免狀の制丈にては賣淫婦の密行を防ぐに足らず警察權の監督は中々之を取締るに易からず領事の取扱法の如きも例へば香港の領事に追迫せらる丶時は更に南洋に航し又北米諸州に渡航するといふが如く却て其出稼ぎの範圍を擴むるに過ぎざるもの甚だ多く次第に候されば速かに周到の取締方法つかさる限りは奸黠輩年又年巧みに法網を潜りて無智の婦人を誘拐欺騙休む時なかる可く幾多の婦人の奴隸制度よりも惡き境遇の下慘狀言ふに忍びざる生涯を送るも限りなかる可く抑も亦強兵富國東洋に霸として更に大義を四海に布かんとする日本帝國にとりては永く國旗の汚とも相成申可況んや近來英米人間に往々排日の聲高きをや何卒速かに適宜の法律を制定し周到の取締あらん事を

右謹而請願仕候

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

不貞潔が生みし人生の悲劇

賛助會員　角谷和市

時日	住所氏名	原因	結果	事情
2	埼玉縣北足立郡片柳村 荒井太吉	我子の放蕩を悲憤し	自殺	長男信一が主人の金千三百圓餘を使ひ込みしに驚いて上京し五百圓餘の金を主家に差入れ歸郷せしが、なほ申譯なしとのみ云ひ暮し、同月二日同家に宛てたる遺書を殘して自殺す。
2	同 荒井信一（二六）（米問屋雇人）	放蕩にて使ひ込み	父を自殺せしむ	主人の金を使ひ込み無斷家出したるより横領罪に問はれたるも、これがために自殺したる父の、熱誠込めたる遺書に對し、主人及び檢事、並に裁判長等大に同情し刑の執行を猶豫さる。
2	日本橋區元大坂町惣さい料理店（岡田事） 吉野傳藏（四八）（料理店主）	妻の浮氣	自殺	借金と中風とに苦しみ居たる傳藏は、妻かげの浮氣者にて雇人等と善からぬ噂を立てらるゝを苦にし八月以來精神に異狀を來し、二日夜家人の寢鎭まるを待ちて自宅臺所の井戸に投身す。
2	本所區向島須崎町ライオン石鹸製造村田方 大久保龍吉（二七）（工場雇人）	私通	殺人	同居の女中おときと私通し夫婦にならんとせしもおときの兩親の反對と主人の說諭に一時手を切りて、おときは歸國する事となりたるを龍吉の落膽一方ならず、おときの到底歸國を思ひ止るべくもあらぬに、短刀を以て遂に殺害し、自らも割腹して危篤に陷る。
5	本所區太平町 山內健吉（二九）	姦通	情死	山村お作と本夫の目を偸み密會せし事發覺し、短刀にて腹を切る。
5	同區松倉町飲食店早川方 山村お作（二一）（早川內緣の妻）	同	心中未遂	山內健吉と姦通せる事發覺し情死を企て剃刀にて喉及び腹を突きしが死にきれず。
6	神奈川縣浦賀 西條久二男（二五）（吳服商）	不品行	無理心中	吉原遊廓辨中樓娼妓花扇（二十五）の熟睡中を狙ひ、洋刀にて女の喉を深さ三寸許り突立て無理心中を企てたるも成らず、腹部を一文字にかき斬りて死す。
6	兵庫縣有馬郡丸山 益本三津藏（二五）	妻の姦通から	殺人	自己の他行中妻小きのが熊太郎と姦通夫婦氣取に暮し居れるを見憤慨して姦夫姦婦を慘殺し嬰兒を踏み殺す、
6	兵庫市一番町鐘淵紡績會社 柳原熊太郎（二八）（元巡査）	姦通	慘殺さる	本夫の他行中小キノ姦通し、夫婦氣取に暮せる折から歸京せる兩人とも本夫のために手斧にて斬殺されたる上、眼玉を抉り出され、なほ生後間もなき嬰兒を踏み殺されたり
6	同 永木小キノ（二四）	同	同	

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

6	北千住 山田久治(卅六)(役場書記)	妻の不貞	殺人	妻サトは元千住岡本樓の娼妓なりしが、四五年前より二百回以上買ひ馴染廢業と同時に同棲せしかど、サトは元來浮氣にして、これを馴染客なりし江部常次と連立ちて歸宅し、離縁を迫りしより庖丁にて殺害す。
10	同 森ソト(二六)(同内縁の妻)	不貞	殺害さる	同
10	深川區富川町三一上總屋方止宿 合田惣作(三二)	放蕩	捕縛	義兄なる石塚福藏(三十五)の三十圓の預り證を僞造し、之を抵當として二十圓を詐取せしを手始とし、又もや染谷の五十圓の預證を僞造し之を抵當に三十五圓を詐取せし外、五ヶ所にて同手段にて二百三十圓を詐取し馴染の娼妓に浮れ中捕縛。
12	本所區長田町四十三 大西久次郎(三〇)(籐職)	放蕩	情死未遂	放蕩のため親兄弟にも見放され、吉川明治樓の娼妓瀧と馴染を重ねしも金に困り、百圓の無盡を五十二圓に落し、九日より十二日まで流連し、兩人下帶を以て互に體を結び合せ鹽酸五百瓦宛を服用して苦悶す。
15	下谷入谷町 岩田久吉(四三)(飾職)	同	外妾を斬り自殺す	久吉の放蕩に愛想を盡かして別れ話となりたる外妾神谷お芳(二一)に未練より、面部、兩手、胸部等都合十二ヶ所の傷を負はせ自分は職業用の硫酸五瓦を服用し同家裏手共同井戸へ投身自殺を遂ぐ。
15	埼玉縣北埼玉郡禮羽村 加藤末吉(二〇)(日本獸醫學校生徒)	私通姙娠	殺人	郷里にある頃、落合あさ(二〇)なるものと私通し姙娠させ去る八月一日生れたる女兒を押つけられ、同棲せる内縁の妻と共に哺育する内、或はミルクの代りに鹽水を與へ、或は額に傷け、或は猫皆か嚥ませるなど慘虐を極め遂に死に至らしめ、懲役七年を求刑されたり。
16	本所區緑町料理店兒玉ヒヤク方 兒玉フク(二五)(ヒヤク妹)	私通	私生兒を窓より捨つ	性來白痴なるフクは、女中拂底のため客席へ出されしが、何時しか客と情を通じ姙娠し十六日午前男兒を分娩したるを窓より戶外に捨つ。
16	本所區柳島梅木林町 埼玉縣大宮町河内運送店重役 武東藤一郎先妻 エイ(五〇)	姦通	欺取	長男熊吉(三二)外六名の子供あるにも拘らず、同家の雇人なる西村行定(三〇)と通じ八百餘圓を費消したる事夫の知るところとなり、表沙汰とならんとせしかど身分を思ひて離縁となりたるをよき事にし、西村と世帶を持ち遊び暮して金に困りたる結果、張物商坂田方に預けありたる先夫の衣類(代五十圓)を詐取す。
17	藤澤町自轉車屋米山方 平田俊久郎(二三)(雇人)	放蕩	一人心中	商用にて横濱に來る毎に永樂町第二二宮樓にて遊興し、娼妓若竹に馴染を重ね型の如く不義理の借財嵩みたる結果多量の青酸加里を飲み自殺す。
19	京都市木屋町五條俱樂部 出口仁助(六四)(小使)	痴情	無理情死を計つて自刄す	同俱樂部の女給仕今村ツギ(一八)に懸想し、母親を通じて同棲を迫りしも手強く拒絶されしを憤り、俱樂部奥の間にてツギに談判を求め、短刀を以て無理に情死を遂げんとせしが、ツギが左手の指三本を斬落されたるまゝ悲鳴をあげて飛び出したるより、今はこれ迄なりと短刀逆手に己が胸部に刺して即死す。
21	千葉縣安房郡白濱村 安田傳作(二六)	窃盜	放蕩	去る十月中横濱監獄を出て十二月中上京し、代々幡村代々木遞信官吏山木庄一方へ忍び入り上等衣類九點(代九十八圓)を窃取せしを手始に外六ヶ所にて二千五百餘圓の金品を盜み數ヶ所にて賣却し吉原娼吉川樓の娼妓朝妻(二一)に浮かれ同人を六百圓にて身受の相談してる事發覺し取押へらる。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

20	京橋區本港町一 羽部文次郎(七六)	我が子の不孝放蕩から	實子を殺す	喜一郎は茨城縣猿島郡境町の産にて長男乍ら親族小野口家を相續したるも散々の道樂に養家の財産を費ひ盡して果ては詐欺取財の爲め處刑せられたる前科者なり文次郎は元同地の郡役所書記を勤め居りしも次男敬次に先立たれたれば詮方なく喜一郎と共に去四十年上京し、前記の場所に一家を借り妻お崎(六八)喜一郎及妻お松(四四)長男清英(二二)長女お峰(一八)の六人にて暮らし居たり然るに喜一郎は昔に變らぬ素行なれば妻のお松と娘お峰が女ながらに床屋を營み一家を支ふる傍ら文次郎夫婦が老いの身にも夜更けまで草鞋を作りて家計を補ひ一家力を合せ世智辛き年の瀬を越さんものと一生懸命となり清英は他に奉公に出で居るなかに喜一郎は例の如く二十日夜も泥醉して歸宅せ家内のものに難題を吹かけ暴行せるを見兼ねたる實父は涙ながらに不孝なる我子を殺すに到りしなり。
20	同 小野口喜一郎(四七)(理髪業)	不幸放蕩のため	實父に殺さる	同
20	京橋區月島通八ノ十 澤田照治郎(二一)(商會店員)	放蕩	取押らる	五六年前より日本橋西河岸十三商輸貿易商田村商會の店員に住込み實直に働き漸次信用を博したるが本年二月頃より惡友に誘はれ吉原通ひを覺え放蕩の資に窮せし末米國移民に關する傳票を僞造し第百銀行に振當てたる小切手にて前後四回に二千三百餘圓を騙取したる中より父金三郎は千圓を受取り遊山に出掛けたるが千葉縣香取郡佐原町旅館平井樓にて多分の祝儀を與へ、藝者數名を揚げて大陽氣に騒ぎたるより足がつき照治郎の罪惡露見す
22	新田郡世良田村 澁澤お菊(二九)(後家)	私通	妊娠嬰兒殺し	世良田銀行頭取森周二郎と私通妊娠し、十一月二十九日分娩したる女兒の口中に土砂を詰込み窒息死に至らしめし事發覺拘引さる。
23	東大久保村 清水釈茂(二四)	放蕩	强盗檢事局へ	元日比谷中學の生徒なりしも不良學生の群に入り四十二年十一月中强盗未遂犯として東京監獄に入獄し昨年十二月假出獄し其後所々を徘徊し盗みたる金品を以て酒色に費消し、十一月二十八日牛込市ヶ谷町米商山下トク方へ長さ一尺餘の短刀を持て押入り雇人山下近藏(二四)を麻縄に縛したる上同人を脅迫して金三圓を强奪逃走したるも眞砂署の手に押へらる。
24	埼玉縣熊谷町 中澤お俊(三五)	姦通	縊死	お俊は寫眞師中澤一作の妻なるが性來淫婦にて三人の子あるにも拘らず昨年よりは町役場書記なる市田村中恩田武田善助(三四)と通じ互に連合ひある爲夫婦になれぬより大膽にもお俊は一作を、善助は妻お菊(二二)を殺さんと謀し合せ去る九月中相前後して毒殺を遂行したり何れも巧みに病死の體を裝ひ醫師の診斷書を得て埋葬を遂げたるが、二人は其後盛んに嬉戯し、お俊は善助の胤を宿して既に妊娠五ケ月となり、毒殺の噂誰いふとなく高まり來りたれば熊谷署に於ては重大事件として姦夫姦婦並びに關係せる醫者を召喚し嚴重取調べの上、死者二つの死體を發掘して解剖に付すべしと申渡し一日歸國を許したる所、姦夫姦婦は到底も遁れぬ所、自殺せんと決心し本月二十日午後三時過ぎ汽車にて中仙道大宮に來り、同所にて更に下り列車に搭じて宇都宮に下車し白木屋旅館に投宿したる上同市旭町一寫眞師三光館で二人別々に寫眞を撮りお俊は其を東京の親戚に送り、翌日日光に赴き華厳瀧に投身死を企てしも人目有て果さず、郷里の土となる事に決心して二人は二十二日熊谷町に歸り、翌二十四日午前一時頃お俊は自宅にて机の上に善助の寫眞を置き、數通の遺書を認め、白木綿を繩に綯ひて八疊間の梁にかけ、別に用意の剃刀を懐中して縊死し、一方善助は市田村の自宅に於て同時刻頃土藏に入り是れは麻縄にて縊死を遂げたり、

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

24	同 武田善助(三四)	同	同	
24	小石川區大塚下町十六 稻垣金太郎(三〇)(無職)	強姦	捕縛さる	畫工大原文雄方の雇人池田三フミ(十八)に懸想し、フミが主用にて附近の洗濯屋に洗濯物を取りに行きしを待受け、自分は大塚署の刑事なりと稱して同行を求め、永樂病院裏原中の空家に伴れ込み、聲を揚げると絞め殺すぞと脅し遂に強姦す。二十九日取押へられ檢事局へ。
25	信州松本市 小坂春一(一九)(左官職)	放蕩	自殺未遂	遊興に耽り親の金を費ひ其上不義の借金嵩みたるよりこれを苦にして二十四日松本遊廓高月樓に登樓し、娼妓の立去りし隙を窺ひて剃刀にて咽喉を切り自殺を計る。
26	栃木縣鹽谷郡實積寺村 三原松太郎(四九)(局長)	同	捕縛	去る二十七年三月埼玉縣巡査を拜命し二十九年七月神奈川縣巡査となり三十年神戸郵便局の通信書記となり同年八月北局へ移り四十二年辭職して賜金百二十圓を賜はりて一旦歸京し四十三年二月中傳手を求めて實寺積寺村の局長となりたるも米相場に失敗して爲替金六百圓電話架設費千八百五十六圓其他合計一萬二千餘の官金を横領し去る十月十一日妻むめ(四四)と二人の子を同縣佐野町實家へ歸し單獨にて千葉埼玉群馬等を經廻り豪遊を極め居りしが遂に捕縛さる。
26	荏原郡玉川村 鈴木佐太郎(五四)	我子の放蕩から	殺人未遂	長男助七は玉川村附近の飲食店へ出入し稼業も爲さず酒色に耽り兩親始め兄弟へ度々迷惑を掛くる末に一同持て餘し殊に父の佐太郎は大いに之れを悲しみて思案の末寧そ不孝の助七を殺し自分も自殺して一家を無事にせしめんと一週間前より機會を待ち居りし折柄一昨夜八時頃助七は玉川村不動の瀧附近の飲食店金清方にて遊興し女中おはな(二〇)を附馬として自宅に連れ來り父の寢室六疊の間に入り何やら捜し廻り居るを佐太郎が見て飛び起き樣助七の腰を蹴り且傍にありし玄翁を投げ付けしかば助七は大に驚き其儘戸外へ飛出せしより佐太郎は此機逸すべからずと用意の短刀を拔放ちて家を距る三間ばかりの處に追行き矢庭に助七の頭部數ヶ所に重傷を負はせ生命を危篤に陷らしむ。
26	同 同 助七(三〇)	放蕩	實父に斬らる	
27	四谷坂町 桑原馬之助(四六)(事務員)	放蕩	實印僞造騙取捕縛	四谷區煙草小賣組合の事務員となりしも素行修らざるため放逐され、その後四谷金融株式會社の事務員に住込み、恩人徳田某の實印を僞造し、芝區役所に印鑑證明を申請し同人名義の五百圓、千圓、二千圓合計一萬三千五百圓を約束手形を僞造し、深川島田健六方より之を抵當に九百五十圓を騙取せしを手始に、同月十一日越中島町一、山宮政雄方より二千圓の手形にて千九百八十圓を騙取し且つ、徳田の所有なる牛込揚場町二所在の二階家屋を他へ八百五十圓に賣却の約束をなし、手付金二百圓を受取り酒色に費消しつゝある事發覺し押へらる。
27	山梨縣南巨摩郡西山村 深澤春代(二二)	私通	姙娠殺人	人夫秋山宗光(三二)外數名と通じ、女兒を分娩したるも養育に困り死に至らしめ、懲役二年に處せらる。
29	栃木縣下都賀郡野木村當時芝區新堀町 鈴木國松(二八)(大工職)	放蕩	捕縛さる	昨年十月中同區愛宕町一ノ八、杉井淺次郎が請負ひし、荏原郡大井町に新築家屋三戸の建築を千三百圓にて下請し、十一月十三日該家屋の落成せし如く詐り、殘金五百圓を淺次郎より騙取し、豫ねて馴染の白首を請出し銘酒店開業の祝宴中新堀署の刑事に押へられ檢事局へ。

廓清會紀要

▲茨城縣下に廓清運動擴張すると云ふ事は平素の希望であつたが今度幸にして下館の三島德藏氏、水戸の加藤萬治氏、水戸の萩谷寬氏、菅谷の平野研吉氏の盡力に依つて舊臘五日より八日迄、水戸、菅谷、下館、眞岡の各地に於て之が運動をなす事が出來たのは愉快な事であつた

▲十二月五日の朝八時、島田會長、益富理事の兩人は上野を立つて先づ水戸に赴き、同日の午後一時から開かるゝ菅谷青年會の總會に出席した。菅谷青年會と云ふのは村長有原利一氏が會長で、その地方の矯風事業のためにも餘程盡力いたして居るのである。而して、當日は年一回の大會であつて、出席者も會員全部、會員以外に於ても丹那珂郡長、野村警察署長等其他村の有志、警察官、役場吏員、農學校の生徒など無慮六七百名の會衆であつた。

▲島田會長は、「現代の觀察」と題し益富理事は、「菅谷青年會員諸君に告ぐ」と題し、兩人とも各一時間餘に渉る演説をなしたが、頗る好影響であつて、まだハッキリした數は分からないが、この青年會を中心として五六十名の新會員が出來る筈になつて居る。

▲同夜また水戸に於て演説會を開いた。會場は友會敎會で、階上階下、滿場立錐の餘地なき有樣、會衆三百八十九名、牧師加藤萬治氏の司會で、島田會長は、「根本問題」と題し、益富理事は「男女問題」と題し、各一時間半餘の講演をしたこれも影響頗るよく直に入會を申込むもの三十餘名、これまで水戸には三十名の會員があつたので、こゝに六十餘名の會員が出來たわけである。

▲六日の夜は下館小島座に於て大演説會を開いた。これは同地の友會出張所牧師三島德藏氏の盡力に依るもので、三島氏は數月以來、この集會の準備のために非常な熱心を以て働かれ、郡長、町會議員の同情を得、これ等有志の寄附金を得て茲に大演説會を催すことを得るに至つた。會衆は杉浦郡長始め、無慮千名を越え、益富理事は「廓清會の趣旨」と題し、島田會長は、「根本問題」と題し、各一時間余の講演をなし、頗る聽衆を動かし、卽座に入會申込者が七拾名あつた。

▲一體茨城縣殊に下館の如きは最も風紀紊亂の甚しい所で、その宿屋と云ふものが、殆んど淫賣屋兼帶と云ふ有樣である斯くの如き土地なれば、こゝに廓清運動をなすは非常に必要な事であるが、併し又一方から云へば、そんな場所柄であるだけ其だけ運動は非常に困難である。それにも係らず、僅に一夕の演説會のために廓清會の新會員が七拾名も出來たと云ふのは豈只我が黨のためにのみ祝す可き事ならんやである。

▲七日島田會長は、眞岡に於ける大演説會に臨んだ。これは精神修養の目的で出來て居る同地の如來會の主催である。郡長や警察署長等も出席し、こゝでも壹千名以上の大集會で、頗る好結果を生んだ。

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

會員の奮鬪（承前）

秋田鑛業所報社　泉谷豐吉

（前略）小生は明春早く當地に支部を御設立の程懇願置にも願度、從來も如斯問題に付き種々考ふる處有之候に付、何れ後便又々申陳べく候。男女に關する意見も多少抱懷致居候間是れ亦餘暇を見て貴誌を拜借致度候豫め御諒承願上候。御來秋の際御說拜聽不勝贊同致せるが其後機に觸れ折にふれて貴兄の蓄音機となり、且つ多少の自說をも加へ大に主張致居候。主張に對しては何人と雖も未だ反對するもの無之候。大に當市靑年會員の力を以て盛んに演說會を開きて人心をして吾等の主張に歸向せしめ、一方娼妓の救濟に取かゝり度存居候。前者は易なるも後者は如何なる方策を以て可なりとするか、一は土地柄にも由る事故大に考究致居候。何れ四五の熱烈なる同志と共に熟議の上成功すべき堅實なる方法に出でんと欲し居候其際は又何分の御援助願はざるべからざる儀に御座候草々

静岡支部　用中鉦太郎

一昨十一日午後、恰も山室軍平氏が富士靑年會の爲め講演せらるゝを機とし、同日當支部會員の來會を促し、該講演終了後向後の運動方法、新會員の募集方法につき懇談協議せり。來會々員十六名、外に江尻より矢崎氏來會向後の運動の第一歩として好機を見て警察署長に面會し本會の趣意を篤と徹通する樣熟談し進んでは樓主に面語諄々として其反省を促すこと等、可及的丈穩和の手段を取りて本會の主旨を徹底せしむる樣努むること。新會員を增募する樣極力努むること等を議し。尙矢崎氏より同氏の取扱ひたる娼妓廢業の實例と江尻遊廓訪問談を聽聞大に參考に資するところあり、山室大佐も遊廓取締規則改正の要點につき語らるゝ處ありたり。

仙臺市東二番町　萩原信行

折角御尋ね被下候ひしに何んの御構ひも致さず失禮仕り候、廢娼の件については御高見承知仕り之れが廢止に充分盡力の必要を認め居候、何れ機會を見て協力御活動を願ふやう致したく候。

茨城縣下館町　三島德藏

拜啓、過日來は御繁忙の央、當地方の爲め最も有益なる御講演被成下感謝の言葉なき次第に有之候。當地風紀廓清上多大の感動を與へられ到處好評の聲のみ就中當地の豪家にて篤農なる大石主人の如きは大に感動を受け今や非常なる決心覺悟をなせる由に有之候。將來當地方廓清運動の上鮮少ならざる利益にて我儕一同喜悅罷在候

爾來會員益々增加いたし前途多望の至りに有之候。三月末には當地及眞岡地方にて廓清會の爲め大に運動仕度、今より之が爲め運動費も各有志者（當地方の）より募集準備計劃中に有之候間、何卒今後充分御助被下度候。當地方今後の運動費は勿論將來貴會に對し大に寄附金呈送仕度考へ居候。三月末には當地廓清會支部の發會式を兼ね大演說會を開催仕度候處、講士には先生と江原素六先生とを願度候が御都合如何に候や甚御手數恐入申候得共御寸暇の際先生より江原先生へ御賴み被下間敷や偏に願上候。

若狹國遠敷郡　遠敷板格方　柴崎俊吉

明治の御代は最早過去の歷史となり、又大正一年も今日一日を以て去年の夢と歸し可申候。顧ふに春來此一星霜は我廓清事業の上に於て諸先輩の御盡瘁の結果日に月に其聲を高め、心ある社會人類の上に一大印象を與へつゝあるものならんと欣喜此事に候。大正第二の新春を迎ふるに當り、廓清會の一員たらば不肖吾等も主義主張として大にしては國家の爲め、少にしては一家一個の爲めあらゆる機會に奮然努力可致覺悟に御座候。我小濱の如き田舍なれども若し交通機關の便叶ふならば主義の爲め一度先覺者の、即ち血湧き肉躍るが如き御講演をも願度と存申候に、嗚呼意溢る、も言訥にして學足らざる不肖の如何とも詮方なきこそ悲しけれ。以上本日仕事の餘暇一分の思ひにても果さんとて、我書齋に殘りし廓清誌四册を當小濱警察署長及び小濱中學校長、水產學校長、女子技藝學校長の四名に送り、之等先生の机下に呈し聊かなりとも貢する處を得ば嵩し不肖の本懷之に過ぎずと存候。願くば彼等先生の上に聖なる御靈の降らん事を。末尾に大正第二の一ヶ年を我廓清事業の上に尙一層大の祝福あらん事を祈ると共に諸先輩の御活動あらん事を茲に切望仕候。

靜岡縣氣賀町　宮下新一

拜啓、本日入會者四名有之候間御報告仕候。其後二旬あまり通信仕らず一大奮戰仕り左記の四名を得たる次第に候。東濱名村佐久米地方は小生の運動によりて少しは善行をなすものも出來仕候。又三ケ日地方は近來殊に青年の墮行甚しく三ケ日町民も大に心配致居り小生も及ばず乍ら働き居候間御助勢被成下度願上候小生地方官署の人に主意を賛成被下誠に運動上に多大の益ありて安心仕候。又當所を本部直屬の氣賀出張所となされ度出張所長には柳瀨小學校長を擧げ副出張所長には宮本八郎氏を擧げ、會計には小生若くは他の有力な會員を擧げ、墮落に墮落し行く人心を覺醒致し度と思ひ居候より、是非御許可相成度願上候。唯小生は人の爲に又人心運動の爲に犧牲となる考に御座候。否小生は今犧牲になりつゝ有之、世の名譽財產は持たず只自分の父とし又神とし信ずる基督に賴みて行く考に御座候。信仰に貞節を加へ、忍耐を加へ、敬虔と兄弟の睦みとを持つて愛の生活、信仰の生活をしたいと思ひ候。

福島縣相馬郡大野村　鈴木常吉

拜啓、廓清雜誌每度御送付に預り難有御禮申上候。陳者貴下廓清薰陶の爲に御奮闘被遊候段深く感賛の至りに不堪候。小生豫れて懶惰遊蕩の間に貴重の光陰を送る不運者の、終に塗炭の苦に陷るを見る每に落首の感を催し候。醉生夢死の青年をして光明の正道に歸せしめんが爲に、餘裕ある每に廓清を說くを無上の好樂と致居候。されば當部落不運の青年は、今や主の遺訓に跪き、徐に光道相興らんとする狀態に有之候間、御禮旁々申進候。

過日、本會賛助員にして靜岡再製茶業組合理事　靜岡富士合資會社　石井晟一たる山家謙次郎氏は、第五回教育家實業家懇話會席上に於て、來會者一同に雜誌廓清を配付したる上、大要左の演說をなし本會の趣旨を紹介相成候。

廢娼問題は我國にありても旣に二十年からの歷史を持つてゐるが、一昨年の春吉原に大火がありて、これが動機となり再び新しい問題となつて廓清會の組織が成つた、今日では各縣に其支部を置いて目的を貫徹する爲に夫々運動され、去る二月當地にも廓清會の演說會が開かれ、續いて支部の設立となり、會長に原崎源作君、副會長には尾崎元次郎君が御當選になつたやうな次第である。本會は精神的に色々この廓清といふ趣意はあるが、或は一身上又は家庭の上に於て一層深く更に高尙なる意味をもつて居る所の會であるが、差當り期する處の目的は先づ第一にどうして公娼制度を破らなければならぬ、といふのであるこれは人道の上からも又國家の體面を維持する文明國としても、此運動は刻下の急務で、宗敎家に限らず、敎育家としても實業家としても、個人としても之は是であるか否であるかを定むべき問題で、若し反對の理由があるならば其聲を十分高めて貰ひたい、衞生上からも、風紀上からも相當の理由があるならば大に研究して、個人としても自己の立場を明にする必要がある。此點に就て敎育に從事せらるゝ諸君、實業に關係せらるゝ諸君の熟考を煩はして御賛成を仰ぐ次第である云々。

京都府竹野郡網野町小濱　片西修一

御會御隆盛奉大賀候。貴下の御活動を常に誌上にて拜親仕り居候。此新しき年には益々大なる發展をなさん事を祈り居候。不肖塞生も青年會などにて常に廓清の主意號叫致し居候。本年は一層の努力仕る考に候、されど總てが熱からず冷からずに困じ居候。先は新春の辭に代へて早々頓首

會員の義務

一　成るべく同志を糾合して會員の增加を圖ること。輿論の勢力を作るには同志の一人にても多からんを要す。

一　不用の雜誌は可成知人の間に廻付して主張の徹底を計ること。

右會員諸君が、自らのデューチーとして御實行あらむことを希望す。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

—THE NANKOIN HOSPITAL—

Chigasaki, Kozagori. Sagami. (Near Oiso)

UNDER THE MANAGEMENT OF

——Dr. K. TAKATA.——

Within a few minutes from the Chigasaki Railway Station

Healthiest Situation

FACING THE SAGAMI BAY

FINE SCENERY

Telephone : Chigasaki No. 2

▲入院は診斷後隨時需に應ず

松田、林、峰間三副長は目下當院に在勤

電話本 八八八番（病院用）
八九八番（自宅用）

東洋內科醫院

東京市神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ケ崎町柏海濱、停車場より半里

電話チガササ 二番

南湖院

野、高橋兩副長は目下當院に在勤

▲院長渡歐中の處今般歸朝す

修容は婦德の第一步

端正の精神は端正の容儀に宿る

常にクラブ洗粉を用ゐて氣高き素顏の美を增さしめよ

朝夕クラブ白粉を用ゐて床しき薄化粧を整へられよ

毎朝クラブ齒磨を用ゐて口齒を淨め精神を爽かにせられよ

斯くして信仰深き御身の品位と健康とを保ち給ふべし